

部門別紹介

診療部

外科(消化器・乳腺甲状腺)
消化器内科
循環器内科
整形外科
小児科
麻酔科
救急科

看護部

看護部長室
外来
手術室・中央材料室
2階病棟
(外科・脳外・整形外科病棟)
3階西病棟
(内科・眼科・小児科病棟)
3階東病棟
(地域包括ケア病棟)
4階病棟
(回復期リハビリテーション病棟)
透析室
外来化学療法室
ナースエイド(看護助手)室

診療支援部

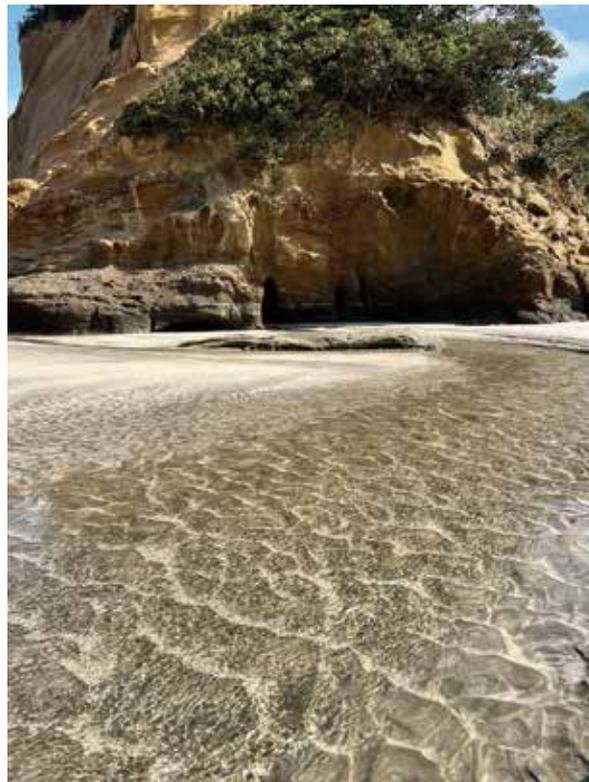
薬剤室
画像診断室
臨床検査室
臨床工学室
栄養管理室
リハビリテーション室
地域医療連携室
クラーク室

事務部

総務課
医事課
広報企画課

直轄部門

医療安全管理室
感染制御部
経営企画改善室
システム管理室



南種子町にある「千座の岩屋」では、自然の造形美を堪能できます。

診療部

外科(消化器・乳腺甲状腺)

外科主任部長 大久保 啓史

当院外科は、現在常勤医師3名で担当しております。副院長の濱之上先生、外科主任部長の大久保、外科部長の金城先生で、島内における外科手術、化学療法、緩和医療に対応しております。

今年度は手術件数が178件で、昨年とほぼ同数でした。消化器癌の手術は腹腔鏡手術が主流となってきており、当院でも9割以上を腹腔鏡で行っています。腹腔鏡手術は、開腹手術と比較し、創が小さいため患者様の術後の回復が早く、患者様の希望も多い現状です。高齢化とともに、外科領域では消化器癌の罹患数が増加しておりますが、種子島においてもその傾向は例外ではありません。高齢者は合併症も多いため、当科での手術が困難と判断した際には、鹿児島大学病院や鹿児島市立病院などと連携を取りながら、治療を行っております。

癌治療とは、手術だけではなく、化学療法、緩和医療など多岐に渡ります。当院は地域がん診療病院の指定病院であり、種子島における癌治療と患者様、ご家族の社会的支援なども行っております。種子島はご高齢の独居の方も多いため、手術をした患者様がご自宅に退院する上で、地域の訪問看護ステーションのサポートが不可欠です。当科も島民の皆様に、島で完結できる癌治療のお役に立てればと考えます。

当院の特徴として、緊急手術が多いことも挙げられ、今年度も手術件数の30%以上が緊急手術でした。当院では、救急外来受診から手術開始までが非常にスムーズであり、血液検査、CT検査、心臓や肺などの検査を行い、5時間程度で手術を行っております。これは、それぞれの担当医師と看護師の連携が良く、麻酔科医師と手術室スタッフの協力が得られていることで可能であるため、当院の医療レベルの高いことを示していると思います。

今後とも、種子島の島民の方にお役に立てますよう、外科スタッフ一同、尽力してまいりますので宜しくお願い致します。

消化器内科

消化器内科部長 宮田 尚幸

消化器内科は現在、常勤医師2人体制で運営しています。その他にも、鹿児島大学病院や鹿児島市立病院消化器内科より定期的に来てくださる非常勤医師とも協力し、島内での完結した医療を維持できるよう努めております。

また、吐血や下血などの消化管出血、閉塞性黄疸に対する緊急内視鏡検査にも対応できるよう体制をとっていますが、当院だけで対応が困難と判断される場合には、鹿児島大学病院や鹿児島市立病院をはじめとして鹿児島市内の病院とも連携を取り、遅滞のない医療を提供できるようにしています。

当院では年間として胃カメラ 1300~1500件、大腸カメラ500~600件ほど行っており、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)による減黄術や結石除去術が50~70件/年、大腸ポリープへの内視鏡的粘膜切除術(EMR)100件/年の治療内視鏡に加え、魚骨やPTPシートの誤飲に対する異物除去などを行っています。新型コロナウイルス感染症流行期には内視鏡検査の受診控えがありましたが、感染制御部はじめ各部署の尽力もあり、年間を通じての検査数は増加し、流行期以前と同等もしくは増加傾向の状態になってきております。現在当院は消化器病学会関連施設として認定されており、地域医療の中核として専門医として経験する必要がある症例は多数あり、内視鏡技術に関しても定期的に鹿児島大学病院での研修を行い当院で行っていない検査についても研鑽を続けることが可能です。

消化器は胃や大腸以外にも食道・十二指腸・小腸・胆嚢・胆管・肝臓と多様な臓器にわたっており、外来受診の際の症状も胸部の胸やけ症状から腹痛・下痢・嘔気・血下血・黄疸・腹部膨満など様々なものがあります。胃カメラや大腸カメラなどを行ったことがない方は一度検査を受けてみることをお勧めします。消化器疾患以外にも同様のことが言えますが、病気の早期発見・早期治療は非常に重要なことであり、どんな些細なことでも構いませんので、お気軽に消化器内科にご相談ください。

本誌が刊行されるころには私の任期が終了しておりますので、後任の先生が頑張っておられることかと思いますが、赴任して2年間種子島での医療に携わることができたのは病院スタッフの皆様の協力あつてのものと思っております。簡単ではございますが、この場で感謝の意を表させていただきます。

循環器内科

循環器内科部長 藺田 剛嗣

循環器内科では虚血性心疾患(狭心症や心筋梗塞)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、末梢動脈疾患、大動脈疾患、肺循環疾患などの心臓および血管疾患、およびそれらの終末像としての心不全を診療しております。

「心不全」は病気の名前ではありません。心不全とは心臓に何らかの異常があり、心臓のポンプ機能が低下して全身の臓器が必要とする血液を十分に送り出せなくなった状態です。心不全は心臓のさまざまな病気(心筋梗塞、弁膜症、心筋症など)や高血圧などにより負担がかかった状態が最終的に至る「症候群」なのです。

心不全の症状には息切れ、呼吸困難、むくみ(浮腫)、疲労感、食欲不振などがあります。最初のうちは階段や坂道などを登ったときに息切れする程度ですが、進行すると少し歩いたり身体を動かしたりするだけでも息苦しくなります。もっと悪化すると安静にしているときでも症状が出るようになり、夜寝ているときでも咳が出たり、息苦しさに寝られなくなったりすることもあります。症状は身体を起こした姿勢だと良くなるのが特徴で、こうした「起座呼吸」まで進んでしまうと即入院が必要です。

高齢者の心不全ではこうした自覚症状がはっきりと現れにくく、息切れなどの症状があっても「年のせいだから仕方ない」、「体力が落ちただけ」と見過ごしてしまいがちです。放置したまま重症化してしまい、夜中に呼吸困難を起こして救急車で運ばれてくる患者さんも少なくありません。息切れや動悸は狭心症や不整脈など、他の心臓の病気が隠れていることもあります。これまで普通にできていた動作ができなくなった、急に体重が増えた、動悸や息切れが増えたと感じたら、お気軽に循環器内科へご相談下さい。

近年、生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患(心筋梗塞や狭心症など)の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などにより、心不全の患者さんが急増しています。心不全は、さまざまな心疾患がたどる終末像であり、高齢者がもっとも気をつけなくてはいけない心臓のトラブルの一つでもあります。罹患者数は全国で約120万人、2030年には130万人に達すると推計されています。がんの罹患者数が約100万人ですから、心不全の患者さんがいかに多いかが分かります。

さらに、心不全の罹患率は高齢になればなるほど高くなることが知られています。米国の研究によると、50歳代での慢性心不全の発症率は1%であるのに対し、80歳以上では10%になると報告されています。高齢化の一途をたどる我が国でも、患者数の増加が続くと予想されており、こうした状況を感染症患者の爆発的な広がりになぞらえて「心不全パンデミック」と呼ばれています。

高齢者、とくに後期高齢者では心臓だけでなく、ほかにもさまざまな疾患を抱えていることが多く、フレイル(虚弱)やサルコペニア(筋力低下)、認知症といった特有の問題を抱えています。心不全の早期発見・治療もひとつの社会問題であり、医療機関のみならず地域全体でさまざまな職種が連携して、心不全の発症や重症化を防ぐための体制作りが急がれています。

循環器内科は2022年4月から田上寛容理事長を含め常勤医3名体制で診療しておりましたが、2024年4月より4名体制となりました。川島吉博先生、下園夏帆先生との交代で2024年4月に東祐大先生、小牟禮大地先生、藺田が着任しました。増員となったことで24時間体制での心臓カテーテル治療を数年ぶりに再開できました。いかに迅速に治療ができるかが重要な急性心筋梗塞の治療を島内で完結できるよう、スタッフ一同取り組んでおります。

最後に非常勤の先生方をご紹介します。天陽会中央病院から月1回、加治屋崇先生に来て頂いておりましたが、常勤医の増員に伴い2024年5月までとなりました。加治屋先生は種子島にご縁があり顔なじみの患者さんも多く、惜しまれつつの閉診でした。同院の北園和成先生には引き続き月3回、多数の患者さんを診て頂いております。鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学教授の大石充先生、心臓血管外科学教授の曾我欣治先生、鹿児島医療センター不整脈治療科の塗木徳人先生にも月1回、外来診療をして頂いています。当院で対応困難な場合には鹿児島大学病院や天陽会中央病院、鹿児島医療センター、鹿児島市立病院などの鹿児島市内の病院とも連携を取る体制を整えております。

熊毛地区の医療に貢献できるよう尽力してまいりますのでよろしくお願い致します。

整形外科

整形外科部長 瀬戸山 傑

種子島での我々の医療体制、種子島での整形外科診療についてお話をさせていただきます。

当院では、3人の常勤の整形外科医に加え、不定期(月に2~3回程度)に大学病院から非常勤の医師の手助けをいただいております。

本島には当院の他に整形外科医が1人しかおらず、いつも多くの患者さんに外来受診いただいております。すべての患者さんに対応できるよう努力しておりますが、午後から手術や検査、入院患者さんの対応等々があり、急を要しないと判断できる患者さんには別日の受診をお願いすることもあります。受診前に電話でご連絡いただくとスムーズです。ご協力よろしくお願いたします。

当院は種子島唯一の救急指定病院であり、急なケガには24時間体制で対応しております。また、ケガのために鹿児島市内への搬送が困難な患者さんについては、集中治療が必要なケースでない限りは当院での手術加療が可能です。当院の使命は島民の皆さんの安全・健康な生活を保障することと考えており、島内で完了できる治療は島内で行うことを基本方針として治療にあたっております。当院で対応不能と判断した際には鹿児島市内の協力病院へ治療をお願いするようにしており、また、ケースによっては鹿児島市内から医師に来ていただき手術をお願いすることもあります。当院で標準的な医療を提供できると考えております。

さて、ここまで当院での整形外科診療について述べてきましたが、私は2024年3月いっばいで異動となります。私が種子島に赴任してから2年半が過ぎようとしており、あまり島に長居しても迷惑になりますので、そろそろお暇の時期となりました。当科の基本理念は変わりませんので、今後も同様の、あるいは私の至らない部分を補っていき、整形外科診療は続いていくと考えております。

私は離島での診療経験がほとんど無く(研修医の時に1か月甕島の診療したのみ)、この2年半は大変貴重な経験となりました。

先ほども述べましたが、本島には整形外科医が限られた人数しかおらず、我々が負う責任は本土の比になりません。当直をしても、救急患者さんはほぼ当院にしか来られないため、ごく短時間しか寝られない当直も珍しくありませんでした。

また、仕事の上でも普段の生活でも天候に左右されることが多く、整形外科手術には固定用の金属が必要なことが多いのですが、天候不良時にはこれらの道具が届かなく、不便な思いもしました。台風の時期に良くみられる、空っぽのスーパーの食料品売り場も壮観でありました。冬は風が強く、南の島と思えないくらい寒かったのもいい思い出です。限られた空間であるため、いろんな方と顔見知りになることも島ならではの思い出です。

種子島の思い出は語りつくせません。私の医師人生にとっても大きな影響を与えてくれた2年半でした。本当にお世話になりました。今後も皆さんの健康をお祈り申し上げます。

小児科

小児科医長 塩川 直宏

種子島医療センター小児科は、種子島全域の小児一次・二次診療拠点病院として、予防接種や健診などの予防医療、感染症を中心とした急性期疾患の外来診療や一部入院診療、基礎疾患を有する児の定期診療などを行っています。また、種子島産婦人科医院と連携し、周産期医療にも携わっています。

専門外来:

小児発達外来(岩元部長 第1・3月曜日)、小児循環器外来(公立種子島病院 徳永先生から塩川が引継ぎ)、小児血液外来(岡本教授 2か月に1回)、小児外科外来(家入教授 月1回)

周産期医療:

種子島産婦人科医院と連動、週2回の新生児健診・1か月健診も実施

小児保健活動:

予防接種(一部を除いて予約不要、月～土)、島内1市2町の保健センターにおける乳幼児健診

2024年4月に塩川が着任して、岩元部長、塩川、西遼太郎医師の3名体制になりました。岩元部長は田上診療所所長も兼任されているため、種子島医療センターの一般外来は主に、塩川・西の2人体制で診療にあたっています。

2024年度を振り返ってみたとき、全国的な流行に乗り遅れることなく、種子島においても手足口病やインフルエンザの流行があり、秋以降は全島でマイコプラズマ感染症や、最近ではヒトメタニューモウイルス気管支肺炎などが猛威を振るっていました。経過の中で入院加療を要する児もいましたが、基礎疾患のある児を鹿児島市立病院へ早めに転院させた以外は、すべて当院で軽快退院させることができました。一重に小児医療に携わってくださった皆様の御協力のおかげと考えています。どうもありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。引き続き、当院で対応可能な症例に関しては、島内で治療を完結できるように診療にあたっていきたいと思いません。

2024年4月に種子島へ着任して、はじめての離島診療を経験しました。それまでが二次病院・三次病院での勤務が長かったため、ひさしぶりの予防接種や診療を経験し、乳幼児健診業務などもあらためて学び直しながらどうにか1年無事に過ごすことができました。

私が小児循環器を専攻していることもあって、2024年度は当院の循環器外来を公立種子島病院の徳永正朝先生から引き継ぎました。残念ながら、お返しすることはできなくなりましたが、診療に関わる患児やその家族からお話を聞く限り、徳永先生の偉大さに圧倒される日々でした。代わりをすることはできませんが、徳永先生が遺された思いというものを引き継ぎ、今後も種子島の小児循環器診療をオール鹿児島で守っていきたいと思うところです。

この1年間、種子島で小児科診療にあたることのできたことは、私の医師人生の中でも貴重な経験になりました。次世代を担う子どもたちが、健やかに安全に成長することができ、その御家族も安心して生活できる環境、社会インフラとしての小児医療を今後とも支えていきたいと思えます。そのためにも、皆様の御協力・お支えが不可欠です。今後ともよろしくお願ひいたします。

麻酔科

麻酔科部長 多田 直綱

当院は島内で唯一手術が行える施設として消化器外科、整形外科、脳神経外科、眼科、泌尿器科などの定期手術を行っており、その手術麻酔で全身麻酔症例や局所麻酔で鎮静が必要な症例の麻酔を当科が担っています。

当科は通常私1人体制として、私が学会などで島内不在の際には当院の病院長補佐(災害医療担当)麻酔科顧問の高山先生や私が以前所属していた兵庫医科大学病院からの応援医師のご協力により24時間365日麻酔科管理対応可能な体制を維持しています。

手術室外での取り組みは内視鏡の鎮静困難症例での麻酔管理や入院患者の疼痛コントロール困難症例の対応、挿管困難症例の気道確保、種子島産婦人科医院での出張麻酔など当院の手術室外でも必要であれば駆けつけて対応しています。術前術後の診察では患者が得られる情報をわかりやすく伝えること、患者からの麻酔や疼痛に対する不安や疑問に丁寧に答えることを心がけています。

10数年前の麻酔科では手術麻酔のみの“点”で患者と接するのが一般的でしたが、ここ数年で術前から術後までを含めた周術期の“線”で関わることの重要性が活発に議論されるようになりました。そうした流れの中で令和4年の診療報酬改定でできたのが術後疼痛管理チーム加算です。麻酔科医、看護師、薬剤師をメンバーとして周術期の疼痛だけでなく周術期合併症にチームで対応すると算定できる加算です。この加算が新設されて3年で1422の施設が認定を受けています。周術期の質の担保という点でも必要性を感じておりますので近いうちに当院でもこのチームを立ち上げ、運用したいと思っています。

また手術室自体がチームという側面があります。手術室には看護師と臨床工学技士、中央材料室スタッフが所属しています。病院によっては麻酔科医を中心としてトップダウンで手術室を運営する施設もありますが、私としては各職種がそれぞれのスペシャリストとしてボトムアップ型で意見を出し合い、手術室がよりよく運用できる

ようにしています。この一年ではより安全な麻酔導入と抜管、麻酔時間の短縮、手術入れ替え時間の短縮などを心がけてきました。スタッフともさらに意思疎通を図り、よりブラッシュアップできるようにしていきたいです。

次に取り組みたい課題としては、入院から手術までの待機時間が長いことがあげられます。大腿骨骨折の患者が入院して手術を受けられるまで1週間程度要したという事例もしばしばあります。合併症のリスクを高めてしまうだけでなく長期入院は社会的にも患者の不利益になります。ベッドサイドで「鹿児島ではすぐ手術が受けられるって聞くのに…」という患者の声を聞くのも心苦しいです。大腿骨近位部骨折受傷後48時間以内の手術に加算があるように、手術の待機時間短縮を目標に取り組みたいと考えています。ただ手術室は少人数制で現在こなしている業務内容から考えても明らかに人員不足です。看護師は救急外来での当直もあります。24時間365日緊急対応が求められる部署で働き方改革もある中、手術の待機時間短縮を改善するには難しい側面が多々あります。普段からスタッフの生活スタイルや勤務状況、健康状態を尊重しながら持続可能な働き方を目指しつつ、課題解決の道を模索中です。

最後になりますが当科は、周術期と各スタッフの連携という線と線を結んだ“面”として患者に関わり、当院での手術を希望した患者がより安全快適に手術を受けられ普段の生活に戻れるよう努めています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

救急科

救急科科長兼放射線科部長 野田 健仁

2024年度から種子島医療センターで勤務しており、同年11月より救急科が開設となりました。

救急科は野田(のた)が常勤で月、水、金曜日の日勤帯を担当しています。火曜、木曜の日勤帯、時間外に関しては他科の先生方に協力していただき診療を行っています。日勤帯は各専門科外来、田上診療所、馬毛島診療所とも協力体制をとっております。2024年度の救急搬送件数は1,199件でした。馬毛島基地整備工事関連での般送、公立種子島病院の救急診療縮小に伴う島内南部圏からの般送が増加しています。

離島の地域医療を担う当院において、緊急性の高い患者様の診療は最優先事項になります。救急診療は複数のスタッフが必要となるため、結果として他の診療が後回しになることがあります。例えば当院外来の待合で長い時間お待たせすることがあると思いますが、日中の外来診療の遅延はその原因の一つとなっています。

当科の役目は病態を把握し、迅速な診断から初期診療を行い、適切なタイミングで専門科にバトンタッチすることです。私は救急科専門医だけでなく、放射線診断専門医も有しており、画像診断のスペシャリストです。画像診断を通じて多数の問題点や専門科が判断しにくい機雑な病態に関しても迅速な診断が可能です。当科が救急診療に対応することで、専門科の先生方には手術や外来、病棟業務に集中することができ、診療の効率化も期待されます。主治医として皆様に関わる機会は少ないですが、当院入院患者様に関してはCT、MRIの読影や画像下治療を通して専門科の診療支援も行っています。

もちろん当院で対応できない専門性の高い病態の患者様にはヘリコプターなどで鹿児島市内に搬送を要請することもあります。安全な搬送が行えるように、全身状態を整えることも使命としています。その上で島内の医療機関、消防、警察、自衛隊、海保も含めた島民の皆様との協力が欠かせません。

移住して約1年がたちましたが、種子島から多くのことを学び、毎日に感謝しております。種子島の皆様、当院双方がwin-winの体制を続けられるような存在となればと思っております。宜しくお願い致します。

看護部

【看護部理念】

安全、安心、安楽な質の高い看護を提供します。

【基本方針】

1. 私たちは、皆様の信頼に応えられる看護を実践します。
2. 私たちは、人権を尊重した心温かな看護を実践します。

【教育方針】

種子島医療センター看護部理念、方針、目標を達成するために
看護部一人ひとりが自分の目標を明確にし、
やりがいと達成感を味わうとともに
看護職として成長することを目指します。

看護部長室

看護部長 園田 満治



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）

看護部長／園田満治

副看護部長兼2階病棟副看護師長／竹之内 卓

副看護部長兼4階病棟看護師長／平園和美

副看護部長兼感染管理認定看護師長／下江理沙

【令和6年度 年間目標と実績】

1. 組織の機能拡大に対応し、病院経営に参加する。

- ① 診療報酬改定に伴い、加算の維持と追加取得に取り組む。(50%)

加算の維持や診療報酬改定に伴う新たな加算を取得できたが、病床単価・外来単価の上昇までは至っていない。

- ② 病院機能評価受審に向けて、医療の質向上に取り組む。(70%)

九州厚生局の適時調査と病院機能評価を受審、各部署責任者を筆頭に改善に努め、看護部に対しての指摘事項は受けなかった。しかし改善項目は多数あり、来年度に向けて取り組んで行く。

- ③ 効果的、安全な病床管理

ベッド稼働率90%以上の目標は、病床利用率89.6%、病床稼働率93.9%と昨年度から0.2%のダウンあり、来年度は改善が必要。入退院支援体制の人員不足もあり、ベッド稼働率90%以上の目標は進展できていない状態。他の医療機関・介護施設との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築は、感染を中心に連携を図れているが、周囲の医療機関や介護施設の人員不足によるサービスの低下がみられ、更なる協力体制が必要と考える。

2. 一人ひとりが持つ力を発揮し、安全安心な看護が提供できる組織作り。

- ① 研修体制の充実による看護の質向上を図る。(50%)

看護部教育委員会を中心にリソースナースを活用し、毎月の勉強会を開催できた。eラーニングを利用した研修は、前年度より履修が進んでいない状態であり、来年度活用できるよう取り組みが必要。

今年度は3名の看護師が特定行為研修を修了、感染管理認定看護師1名合格。

- ② 専門チーム活動を通して、横断的な視点と看護実践能力を高める。(60%)

特定看護師、化学療法、緩和ケア、感染リンク、リスク等の各委員会が主体的に活動できた。ACPに関しては、入院時の聴取を開始でき緩和ケア委員会につながられている。

3. 満足度の高い職場環境作りを強化し、人材確保につなげる。

- ① 事務部や他部署との連携を強化し、設備や働く環境を整備する。(30%)

機能評価受審に重点を置き進めた1年であった。設備や厚生に対しての取り組みが出来ていない状態であったことから来年度は働く環境の整備を進めて行きたい。

- ② 医師や多職種との役割分担を行いタスクシフトタスクシェアの推進を図る。(50%)

医師事務作業室、看護補助者室と連携し病棟・外来運営が出来た。特定行為看護師の養成も進み来年度は、特定看護師の活躍できる体制を構築して行きたいと思う。

- ③ 看護職の多様な雇用形態を検討し、人材確保・職員満足度向上へ取り組む。(20%)

今年度は改善が無く、次年度取り組みたい。

- ④ 安全性、公平性、優先順位を考えた計画的な年次休暇取得。(90%)

- ・有給消化率 75.86% (前年比+4.76%)
- ・リフレッシュ休暇取得92% (前年比-8%)
- ・産休・育児休暇取得者5名 (対象者100%)
女性4名 男性1名
- ・育児時短勤務利用者1名 (希望者1名)
- ・介護休暇取得者 3名 (希望者3名)
- ・時間外勤務平均 6.5H (前年比+2.5H)
- ・離職率 12.9% (前年比+1.0%)

- ⑤ 職員確保のため、広報活動及び学校訪問や就職説明会、病院見学の強化を行う。(80%)
- ・ふれあい看護体験(種子島高校10名・種子島中央高校1名)
 - ・インターンシップ(種子島高校16名・種子島中央高校6名・種子島中学校16名)
 - ・職業講話&島内企業ガイダンス(種子島高校・種子島中央高校・種子島中学校)
 - ・合同就職説明会 3回参加
 - ・看護系大学・専修学校訪問 4校
 - ・病院見学5回開催 9名参加
 - ・WEB病院説明会 10回開催
 - ・人材確保事業(熊毛支庁総務企画課)
鹿児島市内学校訪問 2回

【振り返り】

昨年度を振り返ると、まずは病院機能評価受審・九州厚生局の適時調査の対応があげられる。昨年度からマニュアル等を見直し、改善を行い、大きな指摘を受けることが無く、評価をいただくことができた。

昨年、1番問題となったのは、やはり人材不足である。求人活動や派遣利用で基準を保つことはできているものの、少ない人員で勤務にあたるスタッフに負荷をかけていることである。また、定年延長者も多く、人材不足への対応が今後も大切になる。

来年度は、種子島に原田学園のサテライト校の開校も予定されており、看護部もできる限り応援して成功させたいと願っている。看護助手に関しては、ミャンマーから4名の特定技能実習生を受け入れるように準備を進め、人材確保に力を入れて行きたいと考えている。

馬毛島自衛隊工事が本格的になって来て、工事の遅れもあり工事期間の延長が決定している。毎月300人強の工事関係者の外来受診、外傷や内科疾患による船舶やヘリによる搬送事例も見られる。引き続き救急体制の整備、島民の皆さんが安心して受診できる外来システムの強化も進めていきたい。

外来

外来看護師長 山之内 信



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
 看護師長/山之内 信 副看護師長/荒木 敦
 主任/美坂さとみ 副主任/西田多美子
 看護師/赤木秀晃、川脇靖迪、柳 希美、白尾雪子、
 川口文代、山下ひとみ、山口一江、松本一美、中野
 美千代、長濱美香、中本利津子、大谷清美、永田理
 恵、春村美智枝、北菌ゆかり、鮫島理枝子、高橋望、
 永瀆みや子、永瀆たか子 ナースエイド/迫田久
 美、遠藤みゆき、岡澤多真実、甲斐みなみ、岩屋か
 おる、永井珠美、丸野真菜美

【令和6年度 年間目標】

1. 安全かつ効果的・公立的な外来業務の見直しを
 行う。

- ① 安全な看護サービスの提供
 - ・院内勉強会に参加(医療安全、感染対策
2回以上/年)し、専門的知識の研鑽に努める。
 - ・定期的に看護手順書の見直しを行う。
- ② 外来看護部の組織強化と改善。
 - ・看護部、看護助手の役割分担の明確化と協働
促進。
 - ・業務マニュアルの見直しを行う。

2. 生活を支える視点で患者・家族を支援し、質の
 高い魅力ある看護を提供する。

- ① 在宅療養支援の充実。
 - ・電話相談業務(症状に応じた電話相談、救急電
話トリアージ)の強化。
 - ・病病・病診連携、高齢者施設との連携方法を検
討する。
- ② 外来と病棟の連携強化を目指し、退院患者の
 外来支援体制の構築。
 - ・外来看護師として地域包括ケアへの関心を持
つ。
 - ・地域包括ケア病棟との連携の中で、外来支援
のあり方を検討する。

3. 一人ひとりの人生設計に寄り添える勤務体制
 を構築する。

- ① 業務や組織体制の見直しを行い、ワークライ
 フバランスの充実を図る。
 - ・毎月、定期的にスタッフ会議を行い、より良い
働き方について意見を出し合う。
 - ・事情に応じて柔軟な働き方の選択ができ、就
業可能な体制を検討する。
- ② 働きやすい職場風土を目指す。
 - ・リフレッシュ休暇、計画的な年次休暇の取得
(前年度取得以上を目標)。
 - ・協力し合う職場風土作りに努め、時間外勤務
の減少に取り組む。

【実績】

- ・外来カンファレンス内での勉強会の実施(講
師:救急科 野田健仁部長)。
- ・外来看護手順書の改変(日本医療機能評価機
構Ver.3.0認定)
- ・院内勉強会(医療安全、感染対策)年間2回以
上参加は全スタッフ達成。
- ・全スタッフリフレッシュ休暇取得達成。
- ・今年度一人当たりの年次休暇平均取得数
12.39日。
- ・スタッフ会議の開催(毎月)。
- ・看護助手業務タイムスケジュール作成。

【業務について】

今年度は日本機能評価機構の認定取得、地方厚
 生局による適時調査のタイミングでもあり、外来
 業務の見直しを徹底的に行いました。業務フロー
 の改善やICT活用により、安全かつ効率的な業務
 運営を実現しました。患者・家族支援においては、
 生活を支える視点を重視し、多職種連携を強化す
 ることで、質の高い看護提供に努めました。また、
 勤務体制については、柔軟なシフト調整やワーク
 ライフバランスを意識した取り組みを進め、ス
 タッフ一人ひとりの人生設計に寄り添える職場
 環境を整備できました。今後も更なる質向上を目
 指していきたいと思っております。

手術室・中央材料室

看護師長 瀬古 まゆみ



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

看護師長／瀬古まゆみ 看護副師長／上妻ゆかり・小川智浩 主任／田上義生 看護師／田上俊輔 ME主任／西伸大 ME／上妻優美 ナースエイド／濱本加奈、新藤美津子、水口明日香 事務／永井珠美 病棟・手術室兼務看護師／羽生秀之

【令和6年度 年間目標】

1. 医療安全に興味を持ち、積極的に関わることができる
 - ① 0レベルインシデントの作成1人3件以上。
 - ② 医療安全研修に3回以上は参加する。
 - ③ 病院機能評価受審に向けて、マニュアル・書類の確認・見直しを行う。
2. 作業環境を見直し、効率や安全性を向上させる
 - ① 他部署と相談しながら不用品の選別・処分を行うとともにデッドスペースを活用して物品の整理整頓を行い、整然且つ効率的な動線を確保する。
 - ② ナースステーションを設置し管理業務を円滑に効率よく行う。
3. スタッフ教育の幅を広げ業務負担の分散を図る
 - ① 1回/月以上のカンファレンス・勉強会の実施。
 - ② 手術室支援登録制度をシステム化する。
 - ③ 機械出し看護師の育成・認定制度を完成させ院内に周知・募集開始を行う。

【実績】

- ・年間手術件数1,095件
- ・心臓カテーテル検査 31件
- ・脳血管撮影検査 34件
- ・全身麻酔手術 404件
- ・0レベルインシデント作成件数 5件
- ・マニュアル見直し・改定、書類整理の実施。
- ・手術室ナースステーション設置。
- ・手術室廊下・倉庫のレイアウト全面変更、統一した棚を購入し、手術用機械を使用前後に分けて保管場所を明確にするなど、動線や物品の整理を行った。
- ・手術室スタッフ各個人用の放射線プロテクターを購入。
- ・手術キット内の使用しなかったディスポ製品(覆布やカップなど)病棟へ配布し有効活用した。
- ・予定手術に対する各科医師・麻酔科医・手術室スタッフのカンファレンスを毎週(整形外科:月曜、外科:金曜)実施している。

【振り返り】

地方厚生局の適時調査・病院機能評価と立て続けに受けることとなり、慌ただしく1年が過ぎました。マニュアルの見直しや手術室内の環境整備、機器点検等の振り返りなど、一気に見直すチャンスでもあり素晴らしい経験となりました。同時に普段気になりつつ手付かずだった倉庫の不用品や使用頻度の低い機器の保管場所を確保したり、棚を一新して手術用材料を整理したりしたことで、スペース・動線ともに余裕が生まれたと思います。

年間100件以上の手術を、看護師5人、臨床工学技士2名で回しており、緊急手術の対応もしなければなりませんので、一人ひとりがモチベーションを高く保つ必要があります。ナースステーションの設置や個人用プロテクターの購入など、気分が上がる取り組みを行い、皆で無事1年を乗り切ることができたと思います。

2階病棟(外科・脳神経外科・整形外科病棟)

看護師長 安本 由希子



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

看護師長／安本由希子 副看護師長／竹之内卓、鮫島昇樹 主任／矢野順子 副主任／能野明美、羽生秀之 看護師／北村綾乃、吉永美由希、山田こず恵、上妻幸枝、西田ひずり、蔵元陽子、平原景子、町田愛音、古賀奈々、宇津山真子、和田愛華、松山萌夏 メッセンジャー／沖吉絵里子 ナースエイド／池濱悦子、横山夢乃、倉橋 香、矢野渚、坂下加奈

【令和6年度 年間目標】

状況の変化に柔軟に対応できる人材育成

1. 意識的な病床管理を念頭にコスト意識を持って病院経営に参加する
 - ① コスト意識を持って、機器や備品、SPDカードの取り扱いに注意する。
 - ② 加算漏れが起きないように確実な加算の取得、確認の徹底。
 - ③ 病床管理を意識し、効果的なベッド稼働を行う。
2. 個々の持つ力を最大限に発揮し、安心・安全な看護を提供する
 - ① 各委員会活動に自主的に参加し、病棟内での情報共有を図る。
 - ② 専門的知識を部署内勉強会等で伝達し自己向上を図る。
 - ③ インシデント0レベルレポートを積極的に報告し医療事故防止に努める。
 - ④ 感染対策の徹底。
 - ⑤ 院内勉強会・研修会・院外研修会等に積極的に参加し自己研鑽に努める。

3. 働きやすい職場環境作りを目指し、業務改善を行うことで人材確保へつなげる

- ① 計画的な年次有給休暇、リフレッシュ休暇の取得(5連休計画)。
- ② 効果的に業務を遂行し、時間外勤務の減少へ取り組む。
- ③ スタッフ同士が協力し合える環境作りを行い、離職率減少を目指す。

【実績】

- ・毎月持ち回り制で病棟会を行い、業務改善や意見交換を行った。病棟会の後半で自主勉強したことや自分が担当する委員会で勉強したこと等を勉強会として実施することができた。
- ・チーム毎に隔週で患者カンファレンスを行い、問題点や共有しなければいけない情報等の伝達、他チームからの意見等を聞き情報の共有を図った。
- ・少ないスタッフで多忙業務を乗り切るため、全員が年間を通して5連休以上の休暇の取得を実践することが出来た(年次休暇、リフレッシュ休暇の有効な取得)。

【振り返り】

急性期外科系病棟の特性でもある連日に及ぶ入退院の日々、緊急手術や予定手術、化学療法等様々な業務を遂行するために全員が協力し合える環境作りを心がけましたが、まだまだだと感じた1年でした。

煩雑業務を遂行の中で少しでも気分転換が出来たらと思いワークライフバランスを大切に、全スタッフ5連休計画を立て実施することが出来たのはよかったです。来年度も常にコスト意識を持ち他コメディカルとの連携も強化していきながら安心・安全な看護を提供するべく働きやすい職場環境作りを継続して行きたいと思えます。

3階西病棟(内科・眼科・小児科病棟)

看護師長 西川 友美子



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)
 看護師長／西川友美子 副看護師長／田中加奈
 主任／坂下紀子 副主任／大中沙織、日高靖浩
 看護師／安田英佳、鎌田のぞ美、奥村洋子、安本響、松下愛理、内甌愛海、真鍋有香
 ナースエイド／岩永芙美子、原崎清美、鎌田瑞樹

【令和6年度 年間目標と振り返り】

1. 安定した病床管理を実践し、コスト意識を持ち経営に参画する

- ① 診療改訂に基づいた適正な加算を算定できる。
- ② 備品の破損、紛失をしない。
- ③ 多職種と連携し、ベッド稼働率(90%以上)を維持する。

2. 個々の持つ力を発揮し、安全・安心な看護が提供できる

- ① 知識や技術を向上させる。
- ② 委員会活動に参加し、部署内で情報共有ができる。
- ③ 3b以上のアクシデントを起こさない。
- ④ 感染対策を徹底する・手指消毒液使用1本以上/月。
- ⑤ 接遇の向上を図る・苦情、クレーム0を目指す。
- ⑥ 自己研鑽のために勉強会・研修会に積極的に参加し医療安全2回、感染2回を含め毎月1回以上研修参加。

3. 働きやすく満足度の高い職場環境を作る

- ① 計画的な、年次有給休暇、リフレッシュ休暇の消化。
- ② 効率的な業務を行い、時間外勤務の減少へ取り組む。
- ③ 相談しやすい環境づくりを行い、離職率減少に繋げる。
 - ・新人看護師、派遣看護師との定期的なミーティングを行う。
 - ・派遣看護師、異動看護師のフォローアップを行う。
- ④ 皆で協力して業務が行えるようスタッフ間の情報伝達や連携を強化する。
- ⑤ 業務マニュアルの整備。
- ⑥ 病棟の整理整頓・必要備品の充実。

【業務について】

人員不足が顕著、タスクシフトしたくてもできない、看護師業務を看護補助者に割り振ろうにも補助者のマイナスを看護師がカバーしている状況の中、スタッフに恵まれていたおかげで、皆で協力し合いながら1年をやり過ぎたというのが率直な感想。面会者も病棟カウンターで列を作りスタッフが見つかるのを待ってくださっている…。スタッフの少なさをご理解いただいているのか、お待たせしてもクレームがなかったことに感謝したい。このような状況下で1年間アクシデントがなかったのは本当にスタッフが素晴らしかったからだと思っている。

全国の病院で病床数削減がなされていることを踏まえ、当院も看護師数に見合った病床数の見直しを早急に行っていただきたい。上層部は、現状のような綱渡り業務をいつまでも現場に強いるのではなく、安全に心にゆとりをもって看護が提供できる体制作りをしていただきたい。

3階東病棟(地域包括ケア病棟)

看護師長 丸野 嘉行



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)
 看護師長／丸野嘉行 副看護師長／射場和枝
 主任／山之内英子 副主任／迫田かおり
 看護師／林美智代、飯田ゆりえ、荒河貴子、鷺尾志保、小倉美波、向井蘭、長瀬まゆみ、芝 万里、河野瑞穂、中野麻衣子、石村義文、折口 蓮、木藤洋子、橋口みゆき ナースエイド／大河清美、磯川ひとみ、鮫島和奏、三瀬祐子、河野鈴子、小脇尚代、榎元尚子、永濱利恵

【令和6年度 年間目標と振り返り】

1. 地域包括ケアシステムを念頭に置いた看護の実践。達成率:80%

- ①退院後を見据えた計画的な療養生活を提供。
- ②慢性期患者様の緊急入院への対応。

一般急性期病棟での治療を終えた患者様の転入が多くある。転入時より多職種での患者カンファレンスを実施し問題点を抽出し、退院に向けて福祉サービスや住宅環境などの環境調整を行っている。在宅療養中や老人施設入所中の慢性疾患の増悪による緊急入院にも対応しており、地域包括ケアシステムを念頭においた看護ケアの実践を心掛けた。

2. 安全・安心・安楽な看護の提供。

達成率:90%

- ①患者様・ご家族の意向に寄り添い、身体的・精神的苦痛に対するケアを提供します。
- ②医療安全に対する意識を高く持ち安全活動に参加します。

感染症の流行により面会制限が行われていたが、オンラインでの面会の実施、ご家族が病棟を訪ねられた際の患者様の療養の様子を説明させていただいた。インシデント報告も積極的に行い、

0レベルの報告ができるよう委員が声掛けを行った。

院内で開催された医療安全の研修にもほとんどのスタッフが参加していた。研修当日に参加できなかったスタッフに対しては動画の視聴や資料参照による補修が行われた。

3. 明るく風通しの良い職場環境づくり。

達成率:90%

- ①多職種とのコミュニケーションを大切にします。
- ②ワークライフバランスを取りやすい職場にします。

患者カンファレンスを通して他職種との意見交換を積極的に行っていた。また転棟・転落のリスクの高い患者様に対して、情報交換を行い、必要時に声を掛け合いながら患者様の安全確保に努めた。

ワークライフバランスを充実させるため、スタッフで協力し連休の取得ができるよう心掛けた。またリフレッシュ休暇を取得し心身共に健康な状態での勤務ができるような職場環境づくりを心掛けた。

【業務について】

地域包括ケア病棟には一般病棟での治療を終えた患者様が転入してこられることが多い。患者様の中にはもうしばらくの体調管理が必要とされる患者様や新規の介護保険の申請・介護サービスの調整が必要となる患者様、自宅環境の調整が必要となる患者様もおり不安なく自宅への退院に繋がられるようお手伝いしている。病棟担当の医療ソーシャルワーカーも在籍しており、自宅退院が困難な患者様の介護施設への調整も行っている。

当病棟には、肺炎・尿路感染症・心不全・腎不全・透析導入患者様や糖尿病治療で入院される患者様など対応する疾患は多岐にわたっている。毎日のように新しい患者様が転入して来られるため、ベッド調整も積極的に行われており、入院患者様にもご協力いただいている。

在宅や地域社会と老人施設や一般病棟を繋ぐ重要な立ち位置におかれている病棟であり、今後も患者様・ご家族様が安心して在宅復帰できるようにスタッフ一同努力してまいります。

4階病棟(回復期リハビリテーション病棟)

看護師長 平園 和美



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)
 看護師長/平園和美 副看護師長/能野信枝
 主任/羽島民子 副主任/福山光知子
 鮫島幸代、石井智子、中山君代、武田まゆみ、
 大町田知里、上妻てるみ、岸 美記子、赤木みどり、
 尾野さとみ、渡辺弘美、吉山文子
 ナースエイド/大山晴美、山下育代、日高美代子
 大田英子、新迫朋江、山口真希、羽生龍斗
 上妻さゆみ、牧内久美子

【令和6年度 年間目標と振り返り】
 社会生活への復帰を見据えた、安全・安心・安
 楽な療養環境の提供、看護の実践

1. 生活に着目した看護の提供
- ①患者家族の意思を尊重した看護ケアを提供する。(達成率76%)
 プライマリーナーシングを実践しているが、個々の能力、技量に差がある。また、やりたい気持ちはあっても時間的余裕がない等、思うような看護ができていない時もあった。
- ②日常生活を障害する問題を明確化し多職種でのアプローチにより問題解決を図る。(達成率70%)
 毎日、数例の患者カンファレンス、転入時患者カンファレンス、プライマリーNS、担当セラピストとのミニカンファレンスで問題点をあげ目標達成できるように取り組み評価を行っていた。多職種と十分なカンファレンスができていない時もあった。
- ③看護師一人ひとりの看護実践能力の向上を目指す。(達成率74%)
 病棟内においては毎月1回の病棟勉強会を開催した。ほぼ全員が担当、多職種へも依頼し有意義な勉強会が開催できた。新入職員へも必要時に指導を行っていた。院内の勉強会への参加者が少なかった。

2. 安全な医療・看護・介護の提供

- ①医療安全に対する高い意識を持ち、ルールの遵守・予防策の実践ができる。(達成率74%)
 年2回受講必須の医療安全研修に参加していない人もおり90%であった。転倒等インシデントが発生した時もカンファレンスを持ち対策を立案、共有していた。バーコード未実施も時々あり注意をした。インシデントアクシデントがあった場合はすぐに報告がありレポート提出もできていた。
- ②インシデントレポートの報告を活発に行いアクシデント(3b以上)発生0を目指す。(達成率80%)
 R6年度のインシデントアクシデント報告が98件、うち1件アクシデント3b(骨折)があった。インシデントアクシデントがあった場合は内容を記載し朝の申し送りで情報共有していた。
- ③スタンダードプリコーションの実践により感染予防に努める。(達成率86%)
 手指消毒の使用量に個人差があり感染対策に対する意識に差がある。コロナ、インフルエンザ患者発生時は隔離、感染対策をとっていたが拡大したケースもあった。

3. 働きやすい職場環境の構築

- ①ワークライフバランスを大切にす職場風土の醸成を目指す。(達成率77%)
 希望する連休(リフレッシュ)が取得できるように皆で協力していた。最低5日の有給取得はできていたが病休での有給取得となったスタッフもいた。
- ②業務の効率化、改善に取り組む。一人一改善を考案する。(達成率64%)
 一人一改善の考案は出来ていないが全体で申し送り廃止、記録の簡素化でかなりの改善がありほかの業務に取り組むことができた。

【業務について】

R6年度は病院機能評価受審、地方厚生局による適時調査があり、大変な年でもありましたが多くの事を見直す良い機会となりました。
 患者さん、ご家族が満足し退院、不安なく生活ができるように支援していきます。

透析室

看護師長 平山 靖子



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)
 看護師長／平山靖子 看護主任／江口貴子
 看護師／門脇輝尚、中原美智子、犀川久子、中脇妙子、日高貴久美、長野香奈、松元まり子、石上香寿子
 ナースエイド／鮫島秀子、本炭ひとみ

【令和6年度 年間目標と振り返り】

1. 一人ひとりがコスト意識を持ち、病院経営に参加する。

- ① 人工透析室にかかわる診療報酬改定内容を理解し、加算の維持と追加修得へ取り組んでいく。
→透析時運動指導等加算の算定実施。80%
- ② 使用備品のコストに関心を持ち、大切に使う。
→紛失、無駄使いなく使用できた。100%
- ③ 汎用漏れをしない。
→医事課協力のもと。80%

2. 個々の持つ力が発揮でき、安全安心な看護が提供できる。

- ① 多職種と連携し、患者さんに応じた看護を実践する。
→患者さん個々に合わせた看護実践不足。50%
- ② カンファレンスを行い、情報共有と早期問題解決に繋げる。
→問題解決まで早期とはならず。80%
- ③ それぞれの委員会活動に参加し、スタッフに周知する。
→スタッフ全員への周知が難しかった。80%

- ④ 院内・外の研修への参加、研修用教材を活用し自己研鑽に努める。
→自己研鑽には個人差があった。60%
- ⑤ 緊急時・災害時対応マニュアルを整備・改定し、訓練も実践する。
→訓練まで至らず。60%

3. 働きやすく、満足度が上がるような職場環境づくり。

- ① 患者さんの安全安心を十分考慮した上で、看護スタッフの時間休や年休消化を充実させる。
→スタッフの時間給や年休消化にばらつきあり。70%
- ② 適宜効率的で無理のない業務改善をしていく。
→スタッフの意見を取り入れ業務改善できた。90%
- ③ 解り易い業務手順を整備していく。
→定期的に整備継続の必要性あり。80%

【実績】

2024.4	851人	新規導入1名、転入1名
2024.5	878人	新規導入2名、ゲスト1名
2024.6	803人	
2024.7	853人	
2024.8	862人	新規導入3名、臨時1名
2024.9	784人	
2024.10	854人	臨時2名、ゲスト1名
2024.11	811人	新規導入1名、ゲスト1名
2024.12	806人	新規導入1名、臨時1名
2025.1	819人	臨時2名
2025.2	744人	臨時2名
2025.3	808人	新規導入1名

外来化学療法室

室長／がん化学療法看護認定看護師 山之内 信

【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）

責任者／山之内 信

看護師／美坂さとみ、松本一美、高橋 望

【令和6年度 年間目標と振り返り】

1. 外来化学療法を受ける患者様に継続的な看護を提供し、セルフケア能力を高める支援を充実させる。

① 継続的な看護提供の強化。

電子カルテを活用した情報共有により、外来診療部門や薬剤部との連携がスムーズになり、治療方針や副作用管理の統一が図れた。

② セルフケア能力向上への支援。

副作用対策や日常生活の工夫を指導するパンフレットを整備し、患者様が自宅でもセルフケアを実践できるよう支援した。

③ 定期的なセルフケア指導や電話相談への対応を行い、患者様の不安軽減と自己管理能力の向上を確認した。

2. 委員会とカンファレンスを定期的実施し、患者ケアの質の保証と安全確保の充実を図る。

① 定期的な委員会の開催による安全対策の強化。

月1回の委員会を継続的に開催し、投薬エラーなどのインシデント事例を共有・分析し改善に努めた。

② カンファレンスを通じたケアの質の向上。

業務開始前に医師、薬剤師、看護師によるカンファレンスを行い、治療方針や副作用管理に関する他職種連携を強化した。これにより、患者様ごとのリスクに応じた計画の調整が可能となった。

③ 安全教育の継続実施。

新人看護師やスタッフ向けの化学療法に関する勉強会の実施、製薬会社からの薬品説明会を定期的に行い、教育活動に力を入れた。

3. 各部門と連携し、業務上の問題の明確化・業務の効率化を図る。

① 部門間連携による業務課題の可視化。

委員会を通して、外来診療部門、薬剤部、病棟との会議を実施し、業務フローにおける課題の洗い出しを行った。また、免疫チェックポイント阻害薬のIrAE対策として、電子カルテ上でレジメン表記が容易に確認できるシステムを導入した。

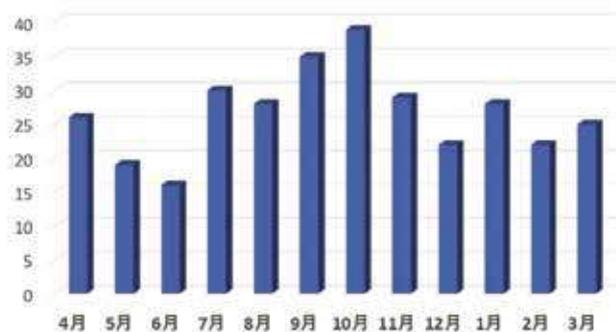
② 業務の効率化。

電子カルテ上での情報共有を強化し、患者情報や治療スケジュールをリアルタイムで確認できる環境を整備した。

【実績】

外来化学療法室利用者数（令和6年度）

外来化学療法件数（件）



合計319件

【振り返り】

外来化学療法を受ける患者数の増加や、新規レジメン数の増加などにより、より専門性を深め、安全性を強化した体制が必要であると感じます。今後もスタッフ一同で「島民の皆様にあいさすされ信頼される化学療法室」を目指し、日々精進して参りますので、引き続きご協力を宜しくお願い致します。

ナースエイド(看護助手)室

ナースエイド室長 横山 夢乃



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

室長／横山夢乃

2F／池濱悦子、倉橋 香、横山夢乃、矢野 渚
坂下加奈

3 西／原崎清美、岩永芙美子、鎌田瑞樹

3 東／大河清美、磯川ひとみ、鮫島和奏、三瀬祐子、河野鈴子、小脇尚代、榎元尚子、永濱利恵

4F／大山晴美、山下育代、日高美代子、大田英子、新迫朋江、羽生龍斗、山口真希、上妻さゆみ、牧内久美子

外来／岩屋かおる、丸野真菜美、岡澤多真実、遠藤みゆき、永井珠美

透析／鮫島秀子、本炭ひとみ

【令和6年度 年間目標】

1. 見直した業務内容を再度マニュアル化する。
2. 各部署の業務問題点を把握し改善に努める。
3. 入院患者様一人ひとりに寄り添った安心安全な介護を務める。

【業務内容】

私たちの業務は主に入院患者様への食事配膳・下膳、自食が難しい患者様の食事介助・入浴介助・排泄介助など、患者様の入院生活を介助・サポートする事。病棟のゴミ出しや退院時の清掃など、院内の環境整備も行っている。

また、看護師と共に検査時の移動や機材の受け渡しその他患者様のお部屋を移動する際など看護師業務がスムーズに出来るようサポートも行っている。

【実績】

業務内容の見直しは、各病棟の現在行われている業務や、改善して無くなった作業などを業務マニュアルから書き直し提出してもらい、改めて各病棟の業務表として1か所にデータをまとめ再配布した。

新たに外国人労働者を受け入れるにあたって、業務マニュアルにフリガナを付ける、簡単なイラストのフリップを用意するなどの案も出ており、作成も視野に入れている。

【振り返り】

昨年度と同様、人員不足によりどの病棟も既存の業務をこなすことが精一杯になっており、精神的にも肉体的にも大変な部分が多く見られました。今年度はわらび苑で先行していた外国人労働者が来られるとのことで、人員の確保による業務効率の向上と新たな試みによる更なる業務の見直し・改善に力をいれていきます。

診療支援部

薬剤室

副主任 谷 純一



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
 薬剤師室長／濱口 匠 薬剤師副室長／谷 純一
 薬剤師主任／渡辺祥馬 調剤助手／日高清美、
 横山ゆきえ、東 麻美

【令和6年度 年間目標】

- 1 チーム医療への貢献・人材育成への注力
- 2 適切な薬剤の供給・使用体制確保
- 3 よりスマートな薬剤関連業務への見直し

【実績】

人材育成・地域医療の質向上を目指した講演会

- 4月…新人看護師教育（麻薬製剤の取り扱い）
 - 12月…市民公開講座（医療機関における感染対策）
 - 1月…地域がん診療病院講演会（がん悪液質の概念と治療について）
 - 2月…地元企業説明会（種子島高校にて講演）
- 講演会を通じて島民の病識向上やこれからの医療従事者育成に注力した。

薬剤供給状況・流通状況に応じた柔軟な対応

各種薬剤の供給状況を卸業者及び医薬品メーカーより提供されるのを待つだけでなく、薬剤師各々で情報収集し、在庫不備が起こらないように努めた。

薬剤室全員で各種業務をカバー

人員不足は毎年の課題であるが、薬剤師や調剤助手が各々担当している仕事や課題をみんなが気にしながら共助できる環境作りに注力してきた。誰かが不在でも滞りなく業務を回すことが可能であるというレジリエンスを向上させ少ないマンパワーながらも薬剤業務の実践・運営に奔走している。

【振り返り】

非常に大きな問題となっている「医薬品流通の不備」の問題を前年度から引き続き抱えた状態で今年度も業務を行ってきた。各種薬剤の代替薬選定や関係診療科の医師への情報提供業務に時間を使うことが増えた。次年度も臨機応変に情報収集・提供業務を行えるように注力していく。

人材育成の面では、後世の薬剤師を育成できる環境作りを目指し、日本病院薬剤師会の認定薬剤師の資格取得及び、実務実習指導薬剤師の資格取得に向けた自己学習に取り組んでおり現在も継続中である。今後は院内教育をより積極的に行い、離島であっても常に新しい知識や技術取得が可能な種子島医療センター薬剤室として魅力を発信していく予定である。



種子島高校就業体験中の様子



市民公開講座の様子（濱口室長）

画像診断室

室長 川畑 幹成



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

室長／川畑幹成

診療放射線技師／田上直生、上浦大生、日高みなみ、上山裕也、白尾颯司、中村詩乃、園田佳大

助手／中河さつき

【令和6年度 年間目標と実績】

1. 一般撮影、撮影技術及び検像の向上と統一化
対象者5名(4年目以上)の内、2名達成
(担当:川畑/上山)

2. JapanDRLs2020公開による検証と見直し

- ① 小児股関節一般撮影の撮影条件プリセットによる被ばくの管理(担当:田上)
- ② 心臓カテーテル検査、非CTO PCIの患者照射標準線量Ka,r[mGy]の管理
・DRL2020と比較し下回っているが、心臓カテーテル検査が上昇傾向(担当:川畑)
- ③ 頭頸部IVR領域について、JapanDRL2020に準じた運用の整備(担当:川畑)

3. 部門内マニュアル(規定書)等の点検・見直し

- ① 胃透視検診検査マニュアル(担当:川畑)
- ② Dr.説明用読影操作マニュアル(担当:川畑/日高)
- ③ 画像診断(読影)運用規定(担当:川畑/日高)
- ④ 画像診断運用フロー(担当:川畑/日高)
- ⑤ ペースメーカー埋込のMRI検査マニュアル(担当:上浦)
- ⑥ 血管造影装置の録画マニュアル(担当:上山/田上)
- ⑦ 検査種別業務手順マニュアル(担当:川畑)
- ⑧ 撮影・検査マニュアル一覧(担当:川畑)
- ⑨ 実習生受け入れマニュアル(担当:上浦)
- ⑩ 個人情報保護に関するマニュアル(担当:上浦)
- ⑪ 放射線被ばく管理マニュアル(担当:川畑)
- ⑫ 検査種別運用フロー(担当:川畑)

4. 撮影プロトコル・パラメータ等の最適化

※下記は主たるものを記載

(一般撮影検査)

- ① 放射線検査時の患者への生殖腺防護(担当:川畑)
- ② CRトリミングの最適化(担当:田上)
- ③ 肩関節軸位撮影の撮影法の最適化(担当:田上)
- ④ 小児股関節撮影条件プリセットの作成(担当:田上)
- ⑤ 腹部画像処理の検討(担当:川畑)
- ⑥ 術直後アントンセン撮影の検討(担当:田上)

(CT検査)

- ① 冠動脈CT及び下肢CTAのdpi法(担当:桑原)
- ② 低電圧を使用した造影剤低減法(担当:桑原)
- ③ 肩関節CTポジショニングの標準化(担当:桑原)
- ④ 冠動脈CTによるコアベータの採用(担当:桑原)
- ⑤ WS剛体位置合わせ使用方法(担当:日高)
- ⑤ 頭部単純高速Helical_CTの最適化(担当:川畑)
- ⑥ 特殊造影CT検査による教育(担当:日高)
- ⑦ WSサブトラ設定変更(担当:日高)
- ⑧ 耳小骨のVR最適関数の検証(担当:川畑)

(MRI検査)

- ① 肩関節ポジショニングの標準化(担当:桑原)
- ② 前立腺MRIパラメータ・シーケンスの改定(担当:川畑)

(胃透視検査)

FPDサイズの再考(担当:川畑)

【実績】

- ・診療放射線技師:2名入職、1名退職
- ・放射線科読影医:常勤1名入職
- ・野田Dr.による画像症例検討会の充実化
- ・ペースメーカー埋込患者のMRI検査運用開始

【振り返り】

今年度は主力技師退職により業務負担が大きくなったが、読影医の常勤入職により遠隔読影業務負担が軽減され大変救われた。

夜間・休日対応についても4名体制の予定であったが技師退職により今年度も3名体制となった。来年度は完全4名体制で運用する必要がある。新人においては問題なく検査等こなしており、来年度は業務範囲の拡大および技術向上と共に更なるスループット向上を期待する。

臨床検査室

室長 遠藤 禎幸



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）

室長／遠藤禎幸

臨床検査技師／宮里浩一、加藤友加里、高田忠雄、河野和也

非常勤技師／荒井伸代

検査助手／鮫島由紀

【令和6年度 年間目標】

○臨床検査技師の増員。

○インシデントレポートを積極的に書く。

【実績】

- 尿定性検査機器、尿沈渣検査機器を当院で初めて導入。
 - ・尿検査数の大幅な増加のため。
 - ・検査室の人員不足緩和のため。

- 2025年2月にHbA1cの検査機器を新しく更新。
 - ・前機種の経年劣化のため。
 - ・HbA1cの件数増加のため。
- 臨床検査技師育成のための奨学金制度の導入。
 - ・現在、1名進学中。
 - ・来年度、さらに1名進学予定。

【振り返り】

今年度は検査件数が増加しました。ですが、臨床検査技師および検査助手の増員はできませんでした。慢性的な人手不足を解消するために、来年度はもっと積極的に検査室の増員を行っていきたいと思います。

当院は離島というハンデがあるため、院内で実施可能な検査はできるだけ取り入れるようにも力を入れています。また、検査結果を迅速に報告できるように、今後も検査室一同頑張っていきます。

臨床工学室

室長 西 伸大



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
 臨床工学技士室長／西 伸大（手術室）
 臨床工学技士主任／芝 英樹（透析室）、細山田重樹（透析室）
 臨床工学技士副主任／上妻友紀（透析・手術室）
 臨床工学技士／上妻優美（手術室）、下村和也（透析・手術室）

【令和6年度 年間目標】

1. 医療機器の管理・点検を通し安全な医療を提供する
2. 透析室・手術室兼任MEの育成
3. 臨床工学士の業務拡大に対応していく

【実績】

ME 室

- ・医療機器修理・点検依頼対応

院内修理・点検	40件
業者修理・点検	8件
- ・定期点検

人工呼吸器	17台
輸液ポンプ	54台
シリンジポンプ	35台
D C（除細動器）	3台
- ・始業点検、人工呼吸器・I A B P使用中ラウンドポンベ室・C Eタンクラウンド など

透析室

- ・R O装置、透析液溶解装置、透析装置点検
- ・透析件数

	9,182件
そのうちIHDF or OHDF	2,279件

H B O（高気圧酸素療法）

- ・治療回数 224回（21件）
 外科・消化器内科、整形外科、脳外科、耳鼻科
 循環器科、泌尿器科、など

手術室

- ・麻酔器、生体監視モニター、電気メス、気腹装置などの術前点検
- ・機械出、術中機械操作作業

器械出、術中補助	249件
整形外科（人工関節置換、人工骨頭挿入など）	
眼科（白内障レンズ挿入術など）	
脳外科（慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術など）	
腎臓内科（内シャント造設術、PTA）	
外科（腹腔鏡下手術カメラ操作）	
IVUS、IABP、テンポラリー操作	31件

【振り返り】

ME室、透析室、OP室、HBO業務に週2回の内視鏡室補助業務（準備は毎日）を追加したことで、他職種と接する頻度も多くなり透析室、OP室に引きこもりがちなMEを見かける機会が増加したかもしれません。

人数も6名と少数精鋭のため即時対応できない場合もありますが、可能な限り対応いたしますのでこれからもよろしくお願い致します。

栄養管理室

室長 渡邊 里美



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
管理栄養士／渡邊里美、瀬下 歩、榎本陽葉理
栄養士／進藤日向子

株式会社LEOC（給食委託会社）

管理栄養士／横溝葵
栄養士／國分沙彩、穂満景子
調理師／濱川スミ子、山口みなみ、濱松 忍、鳥里寿子、柳田浩明
調理員／前園秀一、國浦郁代、長野育子、鳥里朱美、バカンレイモン、タペラオジェレミー、ロンザガケニー
洗浄／川野由美子、河内浩二、松下次男

【令和6年度 年間目標】

1. 医療事故の防止に努める
 - ・アクシデント発生予防
 - ・インシデントLv:0報告を増やす
 - ・食物アレルギー登録に関するマニュアルの周知を他職種に図る
2. 業務改善を図る
 - ・外来に管理栄養士を配置して外来栄養指導の増加を図る
 - ・診療報酬に準じた栄養評価ツールへの変更と周知を図る
3. 食器の破損を減らす
 - ・食器類の破損を昨年より減らす

【実績】

実習生受入れ

- ・平岡栄養士専門学校
7.29～8.2 給食管理実習1名
- ・鹿児島県立短期大学
8.19～9.2 臨床栄養学実習 1名

院外活動

- 6.20 種子屋久農業協同組合
中種子支部女性部「輝らめき研修会」の講師
内容：非常時の炊き出しについて/
調理実習
- 8.28 種子島地区給食連絡協議会
病院給食部会研修会の講師
内容：災害時にできる簡単な料理/
調理実施
- 10.16 中種子町女性団体連絡研修会の講師
内容：非常時の簡単な調理と実演
（調理実習）

行事食（月1回実施）

例：9月 秋分の日



手作りの豆腐入り白玉団子は時間が経っても硬くなりません。

例：2月 節分



手作りの巻寿司は彩り良くボリューム抜群でした。

【振り返り】

今年は何年の保健所の立入検査に加え、九州厚生局の適時審査や病院機能評価も重なり、準備等に時間を要しましたが、マニュアルや業務内容などの振り返りと改善を図る良い機会になりました。引き続き、より迅速かつ細やかな栄養管理を行う体制づくりに努めて参ります。

リハビリテーション室

部長 理学療法士 早川 亜津子



リハビリテーション部門では、本院・介護老人保健施設わらび苑・本院訪問リハビリテーション事業所、訪問看護ステーション野の花、田上診療所訪問リハビリテーション事業所に療法士を配置し、リハビリテーションを提供しています。今年度は新たに理学療法士(以下、PT)3名、言語聴覚士1名が入職し、総スタッフ数58名となりました。

本院の特徴のひとつは全病棟365日リハビリテーション介入です。予想しない怪我や発症に1日でも早く対応できるよう体制を整え、患者様や同じ医療職にも好評をいただいております。

【令和6年度 年間目標】

「専門家として対象(者)に関わり続けるリハビリテーション部」

私たちが対象とする全ての“人”や“もの”等、専門職として関わり続ける覚悟を持ち、各所属チームで行動目標を立て、スタッフ一丸となって取り組み続けることができました。

【振り返り】

今年度は念願でありました認定作業療法士を育成することができました。作業療法士(以下、OT)酒井宣政が当院で初、種子島で初の認定作業療法士となりました。また、OT濱添信人が田上診療所の事務長に栄転し、一部門の管理者から施設の事務部長としてこれまでの経験を活かし活躍しています。

院外活動としては、鹿児島県作業療法学会でOT一葉茜音がポスターセッション、九州理学療法士学会でPT早川がポスターセッション、鹿児島県理学療法士学会ではPT久羽真由・PT小谷流風が口述セッション、PT森内初香がポスターセッションに挑戦しました。

リハビリテーション室内に職員福利厚生の一環として院内ジム「たねザップ」を開設しました。REVOLUONEオールインワンスミスマシン、フィットネスバイクを整備し医師や看護師、メディカルスタッフが業務後ひと運動をする機会として活用しています。

OT川畑真由子が趣味の一環であるフラダンスを、3人の娘さんも所属するフラダンスチームのみなさんと「慰問」として入院患者様に披露してくれました。入院中になかなか触れることができない文化に触れ、いつもと違う患者様の表情や無意識に麻痺した手で踊りはじめる患者様もいらっしゃり、フラダンスの力を見せてくれました。



たねザップ

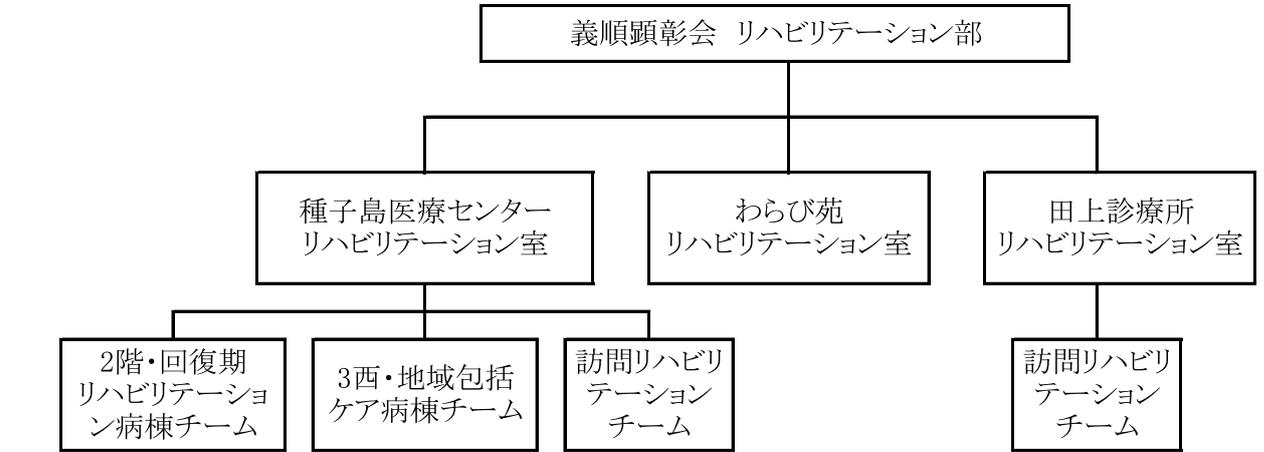
OT川畑と長女さん

今年度は第三者機関の病院機能評価受審を経験し、第三者にリハビリテーション部門の実践を高く評価していただきました。私たちの日々の取り組みは間違っていなかったと思うとともに、スタッフを頼もしく感じることができました。

種子島は高齢化率も高く、当院は高齢者の周術期リハビリテーションが対象となることが多い。超高齢者の患者様が様々な手術を受け、術後のリハビリテーションに懸命に取り組んでいらっしゃいます。患者様が安全に安心にリハビリテーションが受けられるよう他部門と連携し、部門内としては療法士育成に引き続き尽力していきたいと考えます。

今後も「種子島医療」の一翼を担うリハビリテーション部門であり続けます。

組織図 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)



部長	理学療法士	早川亜津子
室長	作業療法士	酒井宣政
副室長	作業療法士	濱添信人
主任	理学療法士	山口純平
副主任	理学療法士	小川哲哉
副主任	理学療法士	内村寿夫
副主任	作業療法士	川畑真由子
副主任	作業療法士	上野 瞬
副主任	言語聴覚士	松尾あやの

理学療法士	門脇淳一	作業療法士	西 愛美	言語聴覚士	和田楓貴
理学療法士	大坪正拓	作業療法士	渡瀬めぐみ	言語聴覚士	長田和也
理学療法士	立切彩乃	作業療法士	大田巧真	言語聴覚士	入江色葉
理学療法士	宿利佳史	作業療法士	井元彩奈	言語聴覚士	高びあの
理学療法士	畠本裕一	作業療法士	市来 鈴	言語聴覚士	岩澤侃汰
理学療法士	大津留麻子	作業療法士	塙 京夏	言語聴覚士	北上瞭歩
理学療法士	末吉優紀乃	作業療法士	射場純香	助手	長野豊子
理学療法士	向井大輔	作業療法士	市来政樹	助手	吉永 舞
理学療法士	馬場健大	作業療法士	江口香鈴	助手	岩元真美
理学療法士	入江宣圭	作業療法士	一葉茜音		
理学療法士	遠藤 樹	作業療法士	原崎響輝		
理学療法士	白石圭太	作業療法士	山田琉奈		
理学療法士	坂ノ上兼一				
理学療法士	古田菜々子				
理学療法士	浜崎夏帆				
理学療法士	平田翔梧				
理学療法士	大木田晃紘				
理学療法士	鬼塚 楓				
理学療法士	久羽真由				
理学療法士	上梨凌平				
理学療法士	弓場海結				
理学療法士	藤田 優				
理学療法士	森内初香				
理学療法士	小谷流風				
理学療法士	今和泉仁心				
理学療法士	園田拓海				
理学療法士	佐久間純一				
理学療法士	諸隈恭介				

急性期病棟(2階)・回復期リハビリテーション病棟(4階)チーム

リハビリテーション室 主任 理学療法士 山口 純平

【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

室長／酒井宣政

主任／山口純平 副主任／松尾あやの

理学療法士／大坪正拓、宿利佳史、畠本裕一、向井大輔、遠藤 樹、古田菜々子、浜崎夏帆、弓場海結、藤田 優、森内初香、小谷流風、佐久間純一、諸隈恭介、今和泉仁心、園田拓海、上梨凌平

作業療法士／大田巧真、射場純香、一葉茜音、原崎響輝、山田琉奈

言語聴覚士／和田楓貴、高 ぴあの、岩澤侃汰、北上瞭歩

【令和6年度 年間目標と行動プラン】

1. 自分が描く専門家を目指すべき行動を取る

- 3ヶ月毎の行動目標立てを行い、自分が描く専門家を目指す
- 前年度継続と専門性の強化(リーダーとのカンファレンス・定期評価(2Wに1度の評価))
- 事前カンファレンスを同職種カンファレンスへ
- 症例検討会、自己研鑽での勉強会(先輩などからアドバイスをもらう機会作り)

2. 限られた時間を有効活用できるように意識する

- 時間を意識する。タイマーの有効活用(介入時間だけでなく作業時間を設定する。カルテ記載、書類作成を決まった時間に終わるように意識する)
- 休憩時間1時間、17:15ではなく、17:00退社を意識する

3. 入院時訪問指導の算定の推進

入院時訪問指導、毎月3件目標 最高目標5件

4. 摂食嚥下療法の算定の構築

5. リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の算定の構築

- 算定要件を把握し、算定を行っていく。

【チームの振り返り】

令和6年度の目標は「自分が描く専門家を目指すべき行動を取る」と挙げ、メンバーが3ヶ月毎に行動目標を立て、自分が描く専門家を目指す取り組みをしました。これに前年度の評価への取り組みを継続して行い、より専門性を高める取り組みとして、同職種でのカンファレンスや自己研鑽での勉強会を実施することができました。

また、今年度は入院時訪問指導の件数も増えてきており、今後もさらに指導件数を増やしていきたいと思えます。この他、摂食嚥下療法、リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の構築を進めることができ、今年度から算定ができるようになりました。今年度は新しい取り組みが多い一年でしたが、メンバーが目指すべき専門家に近づくことができた一年であり、今後より専門家を突き詰めていくことに繋がっていくと考えます。

急性期病棟(3F西)・地域包括ケア病棟(3F東)チーム

リハビリテーション室 副主任 理学療法士 小川 哲哉

【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

副主任／小川哲哉、川畑真由子
理学療法士／門脇淳一、坂ノ上兼一、平田翔梧、
鬼塚 楓、久羽真由
作業療法士／埴 京夏、市來政樹、江口香鈴
言語聴覚士／長田和也、入江色葉

【病棟紹介】

急性期病棟(3西)

呼吸器疾患・循環器疾患・代謝性疾患・消化器疾患などの患者様を中心にリハビリ介入を行っております。

地域包括病棟(3東)

在宅復帰に向けたリハビリテーションや生活指導の実施、住み慣れた地域での療養(在宅や一部の介護施設への復帰)をサポートする病棟です。

【令和6年度 年間目標】

○リハビリテーション部門目標

「専門家として対象(者)に関わり続けるリハビリテーション部」

○チーム行動目標

- ① 外来透析患者への透析時運動指導を開始し、指導体制を構築させ、透析室の取り組みとして定着させる。
- ② 患者、ご家族の視点に立ったりハビリテーションの提供。
- ③ 関連職種(医師、併用セラピスト、看護師、介護士、ソーシャルワーカー、栄養士、ケアマネジャーなど)と随時、必要な情報共有ができ、かつ方針を共有した支援を実施していく(連携強化)。
- ④ 患者様が主体的に活動、参加できるリハビリテーション機会の提供と実践。
- ⑤ チームメンバー全員が疾患、検査データ、画像所見の知識理解を現状より高め、分析して臨床に活かすことができる。
- ⑥ 患者様・ご家族が安心して地域で暮らせるために、退院までに丁寧で不足ない支援と連携を実践する。
- ⑦ 専門家として適切な働き方ができるように実践する。
- ⑧ 組織人として実績含めて組織貢献を実践する。

⑨ 療法士含めて病棟全体で摂食機能療法体制を構築し、患者様が可能な限り経口摂取できる支援を実践していく。

⑩ 患者様、ご家族が安心できる緩和ケア体制を病棟と取り組んでいく。

【振り返り】

令和6年度はリハビリテーション部門目標である「専門家として対象(者)に関わり続けるリハビリテーション部」に対して、チームで10つの行動目標を設定し、年間を通じて取り組みました。

摂食機能療法の算定や透析中の患者様へ運動指導する透析時運動指導等加算の算定を開始することができました。また、他職種や患者・家族との連携力は向上した、内科疾患に対するリハビリテーションについて知識理解も向上したとメンバーへのアンケートにて回答がありました。

まだまだ、取り組み内容には改善・向上の余地があると考えています。患者様や家族へのサポートを引き続き取り組んでいきます。またそれと同時に無駄作業の省略や効率化も図りチームメンバーが働きやすく成果をあげることができるチーム作りを行っていきます。

リハビリテーション室活動紹介

リハビリテーション室では、院外の研修会や学会に積極的に参加するなど、さまざまな活動を行っています。今年度の活動報告については、こちらのQRコードからご覧いただけます。



- ・「認定作業療法士取得について」
リハビリテーション室室長 作業療法士 酒井 宣政
- ・「九州理学療法士学術大会2024 in佐賀に参加して」
リハビリテーション室部長 理学療法士 早川 亜津子
- ・「第33回鹿児島県作業療法学会に参加して」
作業療法士 一葉 茜音
- ・「第38回鹿児島県理学療法学会に参加して」
理学療法士 久羽 真由・小谷 流風・森内 初香
- ・「がんのリハビリテーション研修会に参加して」
理学療法士 平田 翔梧・小谷 流風 作業療法士 射場 純香・江口 香鈴
- ・「藤田ADL講習会—FIMを中心に—に参加して」
理学療法士 向井 大輔 作業療法士 山田 琉奈
- ・「第10回和音療法研修会に参加して」
リハビリテーション室主任 理学療法士 山口 純平 作業療法士 大田 巧真

療法士 修了証一覧(令和7年3月現在)

名前	受講年月日	内容
早川亜津子	2024.4.22	(公社)全日本病院協会及び(一社)日本医療法人協会共催 2019年医療安全管理者養成課程講習会 修了証
	2024.9.16	全日病・医法協認定 医療安全管理者(継続認定)
	2024.10.26	一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センター 第5回医療事故調査・支援センター主催研修 受講証
	2024.12.17	鹿児島県地域糖尿病療養指導士認定機構「DiabetesRelationship Seminar in 九州」参加証
	2024.12.19	公益社団法人全日本病院協会 2024年度医療安全推進週間企画 医療安全対策講習会 受講証明書
	2025.1.11	2024年度日本医療マネジメント学会 医療安全分科会(Web開催) 参加証明書
山口純平	2024.6.15	公益社団法人鹿児島県理学療法士協会 代議員委嘱状(2024.6.15~2026年度決算総会まで)
	2024.10.20	一般社団法人 和温療法研修センター 和温療法研修会修了資格証明書
向井大輔	2024.11.24	第33回藤田ADL講習会-FIMを中心に-受講証明書
入江宣圭	2024.9.20	厚生労働省医政局 第1316回臨床実習指導者講習会 修了証
遠藤 樹	2023.8.25	厚生労働省医政局 第1101回臨床実習指導者講習会 修了証
白石圭太	2024.9.20	厚生労働省医政局 第1316回臨床実習指導者講習会 修了証
浜崎夏帆	2024.11.4	厚生労働省「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書
平田翔梧	2024.7.21	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
小谷流風	2024.7.21	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
酒井宣政	2024.4.1	一般社団法人日本作業療法士協会 認定作業療法士 認定証
	2024.5.27	一般社団法人鹿児島県作業療法士協会 理事(企画部担当)委嘱状 令和8年5月まで
西 愛美	2024.4.18	一般社団法人日本作業療法士協会 生活行為向上マネジメント研修 修了証
川畑真由子	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2024年度地域ケア会議推進リーダー研修会 修了証書
	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2020年度介護予防推進リーダー研修会 修了証書
市来 鈴	2024.7.5	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
埴 京夏	2024.7.7	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
射場純香	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2024年度地域ケア会議推進リーダー研修会 修了証書
	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2020年度介護予防推進リーダー研修会 修了証書
市来政樹	2024.7.7	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
	2024.11.4	厚生労働省「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書
江口香鈴	2024.7.21	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2024年度地域ケア会議推進リーダー研修会 修了証書
	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2020年度介護予防推進リーダー研修会 修了証書
原崎響輝	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2024年度地域ケア会議推進リーダー研修会 修了証書
	2024.10.6	一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会主催 2020年度介護予防推進リーダー研修会 修了証書
山田琉奈	2024.11.24	第33回藤田ADL講習会-FIMを中心に-受講証明書

理学療法学科実習生受け入れ一覧(令和7年3月現在)

神村学園専修学校

R6.6.24~8.17

理学療法学科臨床実習 1名

鹿児島大学

R6.7.24~8.17

理学療法学科臨床実習 1名

福岡医健・スポーツ専門学校

R7.2.3~2.28

理学療法学科臨床実習 2名

地域医療連携室

室長 坂口 健



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
 室長／坂口 健（社会福祉士）
 主任／加世田和博（社会福祉士）
 社会福祉士／岩澤あかり
 入退院支援看護師／上妻智子

【令和6年度 年間目標】

①スムーズな入退院支援を目指す

- ▽入院早期より情報収集の充実を図る
- ▽地域の医療、介護、行政等と連携の充実を図る
- ▽多職種間における情報共有の充実を図る

②がん相談支援センターの充実

- ▽鹿児島県がん相談支援部門会への参加
- ▽がん相談支援センターの周知向上を図る

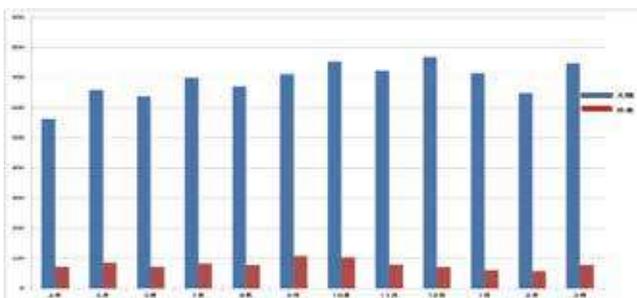
【振り返り】

地域医療連携室スタッフで、毎朝入院患者スクリーニングを実施し情報共有を行った。介護認定受給者に関しては、ケアマネジャーより入院前情報、ケアプランを提供いただきながら、退院支援への早期介入に努めている。また、感染症流行で面会の制限/解除を繰り返す中で、ケアマネジャーや各関係機関へ面会、家族面談時の同席、退院前担当者会議参加の声掛けも行いながら、患者さん・ご家族が安心して退院を迎えられるように努めた。

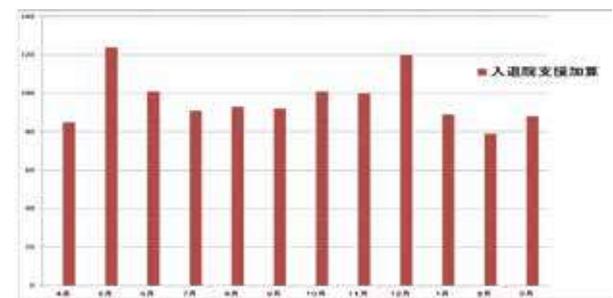
がん相談支援センターの活動として、鹿児島県がん相談支援部門会、がん患者会イベント、西之表市健康フェスタへ参加を行った。

【実績】

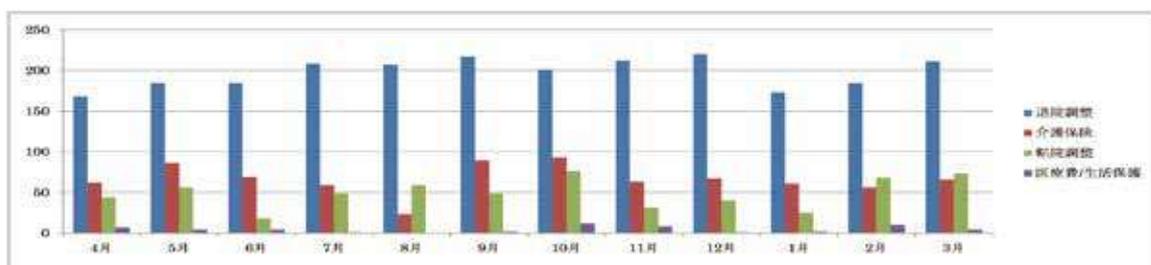
▽相談件数（年間件数；入院…8300 外来…948）



▽入退院支援加算1算定数



▽主な相談内容別件数



クラーク室

室長 榎本 祥恵



【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)

室長／榎本祥恵 外来主任／日高明美 入院主任／池下由紀 クラーク／園田由美子、阿世知修子、峯下千代子、濱元桃子、山口聡美、橋本郁美、武田まゆみ、折口ゆかり、中脇ルミ、中野 唯、酒井弘衣、小倉由理子、大田清美、稲森奈南

【令和6年度 年間目標】

1. 知識の向上と技術の向上に努める
 - ◎医師、看護師その他スタッフとの連携を強化
 - ◎接遇の向上(挨拶・言葉遣い・身だしなみ)
2. 活気ある働きやすい職場環境づくり
 - ◎残業の減少と昼休みの取得へ取り組む
 - ◎計画的な年次休暇の取得
3. 効率的な業務を行う
 - ◎業務改善を図る
 - ◎他部署と協力し、待ち時間短縮に努める

【実績】

担当診療科:内科・循環器・外科・小児科・整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・眼科・心療内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科・糖尿病内科 15診療科担当(全26診療科)

- ◎毎月クラーク会開催
- ◎診療記録への代行入力
- ◎電子カルテシステム入力(検査オーダー・診察予約等)
- ◎診断書などの文書作成補助 総件数:1,315件
- ◎主治医意見書作成 総件数:909件
- ◎医療上の判断が必要でない電話対応
 - ※医師指示のもと行っております。

資格取得:ドクターズクラーク

取得人数:8名(令和7年3月現在)

榎本・日高・池下・阿世知・濱元・中脇・中野・酒井

医師事務作業補助者として、主に医師業務の中の事務的な補助を担当しています。各診療科では医師の指示のもと、ほぼ医師とクラークだけで外来診療を行っています。1人1診療科とはいかず、併科で担当しています。診療では代行入力、診断書作成など少しですが医師の業務負担軽減につながっています。

【振り返り】

今年度は、常勤2名、パート1名入職し、現在32時間研修とOJTで、今までの人員不足を少しでも緩和ができ、私たちスタッフも新人教育に皆で携わり振り返りなどで、意見を出し合い少しでも業務がスムーズに行くように業務改善が図ることができました。残業は前年度に比べ比較的減少でき、年次休暇に関しては、個人差はあるものの取得できました。

また、連携がうまく行くように医師やその他スタッフとのコミュニケーションをとり、業務に支障がないよう皆で協力しながら取り組みました。今後も皆で意見を出し合いながら協議し、業務がスムーズに行えるよう努力して参ります。

事 務 部

総務課

総務課 総務人事係 串間 さくら



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）

事務長／白尾隆幸

総務課長兼任広報企画課長／飯田雄治 医局

事務：係長／上原きよみ、迫田雅代 総務・人事：

係長／渡瀬幸子、能勢綾乃、串間さくら

経理：係長／森永隆治、山田加奈子 施設警備：

主任／濱田純一 施設設備：係長／塩崎光治、主任／奈尾武志、一葉朋哉 用度管理：山田利恵、紺野みどり

【令和6年度 年間目標】

2024年度総務課は義順顕彰会の運営理念に沿って、医療スタッフを支えるとともに、安定した病院運営を行う役割を担うため、次の3点を目標に掲げ取り組みを行った。

1. 事務職員として専門性を高め、組織力を強化します。
2. 収入の確保、費用の縮減による安定的な健全運営を推進します。
3. 診療環境を整備し、質の高い医療の提供と患者様のサービスの充実に努めます。

【振り返り】

今年度は日本医療機能評価機構の認定取得、地方厚生局による適時調査の年となり慌しく過ぎる日々となった。

総務課では主に、4月からナビダイヤルを導入することにより電話対応が普段の事務室への業務の電話と違い、患者様の病状や薬に関すること、また、入院・予約や診断書に関すること等、専門的な内容を聞かれることも多く、他部署との連携が求められた。

また、ホームページへのお問合せメールに各種多様な質問事項が届き、各部署へ依頼する等の対応をする機会も多くなった。

4月から勤怠管理システムの導入により、本年度末でタイムカードを廃止することとなり、現在の勤務管理と別に勤怠管理システムでの勤務確認が可能となり、勤務の入力方法や職員の新規・異動・退職登録、有給休暇付与など覚えることが大変だった。それに併せてネームICカードの作成を行い、それぞれの部署での登録や、施設整備係長に依頼し、出入り口の登録を行うまでが一連の作業となる。来年度は各部署の勤務入力まで完璧にできるようにしたいと思う。

医療廃棄物の処理に関するマニフェストが紙媒体でしたが、こちらでもデータでの入力作業へと変更になり、事務手続きは今後、以前の紙媒体から電子管理へ進んでいくことを強く感じた。

本年度の目標の一つに、診療環境を整備し、質の高い医療の提供と患者様のサービスの充実に努めることに関して、施設整備により現在も病棟の床の張替えやトイレ改修を順次行っており、外来をメインに院内のカビ取り作業を行ってきた。病院建物の老朽化に併せて改修工事を行う為、本年度目標としている費用の縮減とはなかなか上手くいかないところもあるが、本院の環境整備を継続して行うことにより、患者様の心に少しでも輝きが増すことを目標に、今後も接遇・サービスに努め、また、総務課として、職員の方々にも専門的支援ができるように努めていきたいと思う。

医事課

課長 赤木 文



【令和6年度職員】（令和7年3月31日付）
 医事課長／赤木 文 入院医事主任／福山龍巳
 外来医事主任／長野加奈子
 外来医事副主任／長野さゆり 入院医事常勤／
 小脇宏之、加藤初美
 外来医事常勤／野元かおり、児島佑奈、伊東真由、藤田ひなの、中村真帆、東園清志、
 外来医事非常勤／今西季奈、日高智佐美、古賀奈那海、竹之内麻良、春村充代
 予約センター／馬越小百合、西村智子、深田育代
 フロアスタッフ／松元尚美、大迫けい子、赤木七海、海野すみれ、宮内美穂

【令和6年度 年間目標と振り返り】**1. 顧客の視点**

- ① 患者サービスの向上を目標に手厚い接遇に努める。
 ◎接遇に関する研修会を行う。
- ② 指差呼称確認を徹底する。
 ◎処方せん渡し間違い。 0件
 ◎受付間違い。 0件

2. 財務の視点

- ① レセプト査定率の減少・返戻の減少に努める。
 ◎一時査定率0.2%以下。

3. 学習と成長の視点

- ① 医事職員の診療報酬に関する知識向上に努める。
 ◎研修会への参加と内部勉強会を行う。
 ◎資格取得によるスキルアップ。

【実績】

- ・診療報酬に関する院内勉強会を毎月開催。他部署からの参加者も多く、診療報酬に対してのイノベーションや連携を図ることができた。
- ・部署内で勉強会を開催し職員の意識統一を図った。
- ・施設基準等に係る適時調査では医事課が中心となり他部署と協力して取り組んだ。
- ・医療制度の変更などにも迅速に対応しスムーズに請求業務を行うことができた。
- ・レセプト業務の作業工程の見直し、A査定（病名なし）の減少に努めた。
- ・がん登録の更新や診療情報管理士の資格取得に積極的に取り組んだ。

【振り返り】

今年度は退職者が3名、育児休暇1名。毎年人員不足が問題な中、施設基準等に係る適時調査が10月にあり怒涛の日々だった。

施設基準の届出の見直しや診療記録・掲示物等、医事課が中心となり職員一人ひとりが自分のやるべき業務を滞りなくこなし無事に終える事が出来た。今回の適時調査で学んだことも多く確実にスキルアップできた1年だったと思う。今後のチーム医療への貢献に繋がりたいと思う。

また、受付・会計業務に関しても初期対応・症状の確認を徹底し、診療科へ繋ぐことができた。患者への声掛けやサポートもフロアスタッフが中心となり手厚い接遇に努めることができ、患者様のご意見箱等では接遇に関する指摘は0件だった。

診療報酬請求に関しては前年度に比べ査定率が上昇傾向(+0.6%)にあった。一人ひとりの知識は向上しつつあるが、【点検】という意味で漏れが多かった。今後の課題とする。

広報企画課

主任 竹田 英子

【令和6年度職員】(令和7年3月31日付)
広報企画課長／飯田雄治 主任／竹田英子
姫野ナル(プロテニスプレーヤー)

【令和6年度 年間目標】

種子島医療センターの理念、業務、活動を正しく知っていただき、患者さんや島民の皆様を始め、広く理解を深めていただくことを目標に、ホームページや広報誌、SNSなどを通して広報活動を行っています。

今年度は、昨年度に引き続き、職員の採用を強化するリクルート活動に力を入れ、ホームページへの採用エントリーを増やすことを第一の目標としました。

また、年報誌『飛魚』の編集作業のサポートの他、2年ごとに担当する編集委員がスムーズに行える仕組みの構築を課題にも取り組みました。

【実績】

●職員採用強化のためのリクルート広報活動として、主に次の業務を行いました。

- ・デジタル化の推進として採用案内パンフレットに代わる「リハビリテーション室案内LP」およびQRカードの制作(2024年6月オープン)



- ・新卒求人受付サイト「キャリアタスUC」、「キャリアマップ」、「求人受付NAVI」に一部を除く当院職種の2025年卒向け求人登録。
- ・マイナビ看護学生説明会(鹿児島会場)、神村学園病院説明会のサポート。
- ・月ごとのHPアナリティクスデータの提出。
- ・病院ホームページトップページのリニューアル(4月オープン)、リクルートサイトリニューアル(7月オープン)。リクルートサイトから新卒採用だけでなく中途採用もエントリーできるように改善。



※令和5年度ホームページ
およびリクルートページ
(リニューアル前)。



●年報誌『飛魚』の編集作業のマニュアル化

医師、非常勤医、各部署、関連施設への原稿依頼書等のひな形、編集作業のスケジュールチェック表、入稿状況がわかる台割といった編集マニュアルの作成、Googleを利用した印刷会社への入稿・再校作業の仕組みを構築しました。

【振り返り】

当院ホームページユーザーの7割がスマートフォンなどのモバイルを使用していることからモバイル対応のホームページの構築、ホームページやSNSを活用したリクルート情報の提供、それに伴う情報のデジタル化(LPの制作)を進めました。その効果として、ホームページ、リクルートサイトへのアクセスが増え、採用エントリー、さまざまな問い合わせが多く届くようになり、総務課と経営企画改善室に対応いただいております。

離島という環境でのリクルート活動を模索し、挑戦し続けた1年でしたが、今後も当院独自のPR方法を構築してまいりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

直轄部門

医療安全管理室

医療安全管理者 作業療法士 酒井 宣政

【構成メンバー】(令和7年3月31日付)

医療安全管理責任者/高尾尊身
 専任医療安全管理者/酒井宣政
 医療安全機器安全管理者/西 伸大
 医薬品安全管理責任者/濱口 匠
 医療放射線安全管理者/川畑幹成
 事務部門担当者/白尾隆幸、塩崎光治、濱田純一
 医療安全管理室兼務者/芝 英樹、田中加奈、福山龍巳

【令和6年度目標】

医療安全管理委員会の目標「医療安全管理に対する職員の意識や動きの現状把握。安全文化の土台作り」に対して医療安全管理室として以下の事項に取り組んだ。

1. 医療安全管理指針の作成と周知

指針の見直し、周知状況の把握(医療安全に関する意識調査アンケートの実施)

2. 年2回以上の職員研修の実施(全職員対象必須研修)。

研修後のアンケート、学んだことの確認で必要性和状況の把握を行う。スポット研修の実施。

3. 事故報告体制の確保。現状の見直しを実施。

【実績】

1. 医療安全指針の作成と周知

今まであった指針の見直しを実施。各部署の協力も得て、確認と刷新を行った。さらに電子カルテで閲覧可能な状態とし、全職員へ周知した。また、これまでは医療安全管理委員会と医療安全管理部門の規定が曖昧な状態となっていた。そこで医療安全に関する課題を医療安全管理部門で検討し計画を立て委員会へ押し量る流れとした。

2. 年2回以上の研修の実施

- (1) 令和6年6月26日「あなたのインシデント報告が医療安全文化を醸成する」
講師:内門泰斗先生(鹿児島大学病院医療安全管理部部長特例教授)
- (2) 令和6年11月21日「医療安全を支える意識と対策」
講師:高尾尊身病院長
- (3) 令和7年2月12日「RCA分析って何だろう?」
講師:田中加奈副看護師長
上記を4階大会議室にて対面・オンラインのハイブリッド研修で開催した。さらに後日アーカイブ配信を実施した。

3. 事故報告体制の確保。現状の見直しを実施。

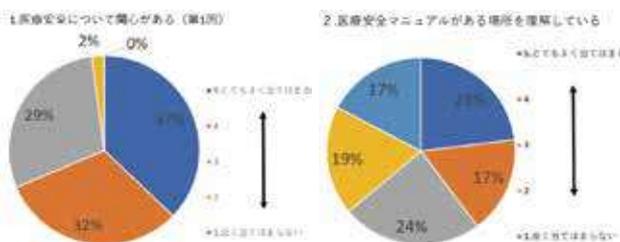
アクシデント(3bレベル以上)の報告体制について検討し、修正を行った。それを各部署へ掲示し、電子カルテですぐに確認できるようにした。

4. その他

- ・医療安全地域連携加算に係る相互評価
- ・九州厚生局の施設基準に係る適時調査:大きな指摘事項なし
- ・病院機能評価一般病院2 Ver3.0受審

【第1回令和6年度医療安全意識調査】

(令和6年6月13日～19日 一部のみ記載)



【第2回令和6年度医療安全意識調査】

(令和6年11月16日～20日 一部のみ記載)



【振り返り】

令和6年度は医療安全管理に対する全職員の現状把握に努めた。安全文化の土台作りとして委員会や部門の規定を改定し、電子カルテを利用し閲覧しやすくなるように工夫した。全職員対象の研修会を3回実施し、意識調査アンケートを2回実施した上記グラフ参照)。残念ながら職員の意識に変化はみられない状態であった。しかし、医療安全マニュアルの場所の把握は進み、今後、職員が自身の医療安全を担保するための礎となる可能性を感じる事が出来た。今後も職員の皆様が快適に安全に業務に邁進出来るよう仕組みづくりを行っていきたい。

感染制御部

感染制御部 部長 下江 理沙(感染管理認定看護師、看護部副看護部長)



【構成メンバー】(令和7年3月31日付)

感染対策チーム(ICT)

専任医師/病院長 高尾尊身

泌尿器科部長 中目康彦

専任薬剤師/薬剤部主任 濱口 匠

専任検査技師/検査室長 遠藤禎幸

兼任看護師/感染管理認定看護師 谷 英佳

専従看護師/感染管理認定看護師 下江理沙

【令和6年度 年間目標】～大項目のみ掲載～

- 1 感染対策の実効性向上と定着
- 2 地域の連携体制の構築
- 3 院内感染症発生時の早期対応体制の強化
- 4 データ活用と見える化による感染対策の質向上
- 5 抗菌薬適正使用チーム活動の推進

【実績】

感染対策向上加算連携活動

2/20,6/27 10/17,12/19	熊毛地区医療機関連携感染対策 向上加算連携会議
10/3,10/10	屋久島保健所 感染症地域連絡研修会 “危機管理に備えた地域連携と感染 対策” 医療機関・福祉施設との新興感染症 等訓練
12/5	種子島内感染対策加算連携 医療機関・福祉施設合同 新興感染症等訓練 “危機管理に備えた地域連携と感染 対策”

院内研修

1/26	流行感染症と治療 講師:小児科医 三浦希和子医師
2/22	感染症診療の基礎 講師:医療法人鉄焦会亀田総合病院 感染症内科部長 細川直登医師
5/28	トリプル改定に伴う感染管理体制 ～対外機関との連携と院内体制～ 演者 下江 菌と耐性と私～愛するあなたのため、毎日 心がけていたいから～ 演者 濱口 血液培養について 演者 遠藤
11/26	手指衛生を大切にしよう ～根拠を院内データで理解する～ 演者 谷、下江

院外発表

7/20	第11回鹿児島セーフティマネジメント 研究会学術集会 「医療安全から見た感染対策」
9/7	宮崎県立看護大学看護学研究会 第17回学術集会 「手指衛生遵守を組織文化に根付かせる ための現状評価 WHO 手指衛生多角的 戦略に基づく現状把握と今後へ～」

【振り返り】

今年度、厚生局の適時調査および医療機能評価機構の監査を受け感染制御部としては初の受審経験でした。法律や診療報酬の観点から感染対策体制を見直す機会となり、当院に必要な仕組みづくりへの理解が深まりました。一方で手指衛生の遵守状況は改善が頭打ちであり、職員の意識づけが今後の課題です。地域流行感染症の流行と並行して、医療関連感染や抗菌薬適正使用への取り組みは、医師、看護師はじめ他職種からの報告・相談が増えており、現場の連携強化が進みつつあります。感染制御部の活動が、現場の実用的になれるよう今後も改善に努めていきます。

経営企画改善室

室長 戸川 英子



【構成メンバー】(令和7年3月31日付)
室長/戸川英子 主任/加世田佳子
主任/河野由華 原 照美

【令和6年度 年間目標】

1. 病院機能評価受審にむけて、全部署への支援を行い、業務改善や院内体制の整備に貢献する。
2. 院内外との継続的な連携を強化し、広報活動、求人活動、教育講演活動の充実を図る。
3. 役割を明確にした他部署への横断的な支援の効率化と充実を図る。

【実績】

- ・定例会12回開催
- ・会議日の変更(10月から第3月曜日14:40～)
- ・経営企画改善室直通電話開設(8月)
- ・全職員対象必須研修の取決め案策定
- ・職員教育委員会規程の見直し案策定
- ・研究発表、症例発表、論文投稿支援体制案検討
- ・らくらく連絡網活用推進支援
- ・外来モニター広報12回更新
- ・西之表市「市政の窓」病院広告12回
- ・看護部他部署からの依頼の文書ポスター等作成
- ・季節性インフルエンザ集団接種実施
- ・がん診療連携拠点病院研修事業担当
- ・病院機能評価受審支援
- ・外国人看護助手受入れ準備窓口
- ・医療福祉事務学生対象求人サイトへの登録
- ・病院HPエントリーフォーム窓口の改善
- ・医療系養成校へ求人案内表発送 7月、12月
- ・看護学校サテライト教室準備担当
- ・インスタ発信
- ・熊毛支庁人材確保事業学校訪問協力2回
- ・職業、企業説明会参加3回(島内)

- ・合同就職説明会出展3回(島外)
- ・病院見学受入れ5回(看護部)
- ・WEB病院説明会11回(看護部)
- ・奨学生面接4名(看護部)
- ・入職面接5名(看護部)

【振り返り】

2年目は、公開講座や学生の受入れイベント、企業説明会等々の活動を充実させてきました。各部署からの依頼も極力柔軟に対応し、病院機能評価に向けての準備も、当室一丸となって支援ができたと思います。

【活動紹介】

令和6年度 年間行事

- ・5月5日 「種子島子どもまつり」参加
- ・5月14日 職業体験学習 (種子島中学校)
- ・5月23日 新入職員ランチ会
- ・5月30日 クリーン大作戦 (ごみゼロ運動)
- ・7月5日 七夕飾り訪問 (めいろうこども園)
- ・8月3日 ふれあい看護体験
- ・8月25日 鉄砲まつり手踊り参加
- ・10月2日～4日 就業体験学習(種子島高等学校)
23日～25日 (種子島中央高等学校)
- ・11月4日 緩和ケア研修
- ・12月5日・1月30日・2月21日・3月17日
学校訪問(種子島中学校・種子島高等学校
・種子島中央高等学校)

種子島子どもまつり



心臓マッサージ体験や聴診器体験等、子供たちだけでなく保護者も楽しみながら体験していただき、風船効果もあり400組の参加がありました。

職業体験学習



種子島中学校の生徒さん達が、職業体験学習にきてくれました。希望する部署の見学や、体験を通して、院内の医療職を知る機会となっています。

新入職員ランチ会



2024年度入職した職員を対象に、新入職員ランチ会を実施しました。お互いに入職してからの感想や日々の様子を話しながら、同期同士で絆を深める機会となりました。

クリーン大作戦(ごみゼロ運動)



日頃お世話になっている病院周辺の方々への感謝の気持ちを込めて、5月30日(ごみの日)に種子島医療センターの周辺のゴミを集めるクリーン大作戦を行いました。地域の方からも声をかけられ参加した職員も心がクリーンになったイベントでした。

七夕飾り訪問(めいろうこども園)



めいろうこども園の園児たちが、元気に歌ってくれた七夕の歌が院内中に響き渡り、職員も患者さんたちも思わず笑顔になりました。子供たちから沢山の元気や笑顔をもらえました。

鉄砲まつり手踊り



2024年度も種子島医療センターの職員・わらび苑の職員、総勢80名で団体手踊りに参加しました。マリンブルーの法被を纏い、子供から大人まで音楽に合わせて声を掛け合い、踊りながら沿道の声援にも笑顔で応え、改めて当院の存在を知っていたく機会にもなりました。

就業体験学習



種子島高等学校



種子島中央高等学校

10月に種子島高等学校と種子島中央高等学校の生徒さん達の就業体験学習が行われました。3日間を通して職員や入院患者さんの様子、質の高い医療機器や設備等々を見学しました。将来、医療の道へ進んでくれることを願っています。

緩和ケア研修



2024年度もがん診療連携拠点病院事業として地域の医療従事者対象に「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を開催し、12名の修了生が誕生しました。1日かけてのロールプレイや症例検討の演習が行われるタイトな研修ですが、満足度の高い研修です。引き続きがん患者さんへ質の高い支援が出来る人材育成を行って参ります。

学校訪問



一年を通して、島内の各学校への訪問をしました。種子島の暮らしを支える職業人座談会・職業講話・地元企業説明会・島内企業ガイダンスなど、直接生徒さん達に話をする事で、種子島医療センターのことを知ってもらい、医療職への興味・関心をもってもらう機会となっています。

公開講座(全5回実施)

昨年に続き地域の方々への健康情報の提供と医療や当院を知っていただく機会となりました。この場を借りて講師をはじめご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

- 令和6年5月19日
「胃大腸カメラについて」
消化器内科部長 宮田尚幸
内視鏡技師 荒木 敦
会場28名、Zoom 34名
計62名参加



- 令和6年8月4日
「整形について」
整形外科部長 瀬戸山傑
運動器認定理学療法士 山口純平
会場37名、Zoom 11名
計48名参加



- 令和6年10月20日「こわくてやさしいがんのおはなし」
病院長 高尾尊身
外科部長 大久保啓史
がん化学療法看護認定看護師 山之内 信
会場52名、Zoom 13名
計65名参加



- 令和6年12月15日
「人類と感染症の歴史から学ぶ」
小児科部長 塩川直宏
薬剤室室長 濱口 匠
会場25名、Zoom 12名
計37名参加



- 令和7年2月23日
「糖尿病について」
糖尿病内科医長 中村香織
会場61名 計61名参加



システム管理室

室長 柏崎 研一郎



【構成メンバー】（令和7年3月31日付）

室長/柏崎研一郎

副室長/吉内 剛 主任/鎌田泰史

【令和6年度 年間目標】

1. 電子カルテ及び付随システムの安定稼働

随時新規端末への入替

2. 各種更新作業への対応

サーバーリプレイス、オンライン資格確認、クラウド電子カルテ、オンライン診療

【実績】

1. 電子カルテ及び付随システムの安定稼働

サーバーにおいては、年間を通して大きなトラブル等はなく、安定して稼働しています。クライアント端末は経年劣化により故障が見られ、新規の端末に入替実施しています。

プリンタ・スキャナ等の連動機器についても、障害発生の都度適切に対応しています。

2. 各種更新作業への対応

サーバーの保守契約切れに伴うリプレイス作業を実施し正常に終了しています。

また、馬毛島関連のM3 デジタル・デジスマ等のクラウド利用のシステム導入も実施しています。

【振り返り】

システム管理の面では、大きな問題はなく管理・運用を実施することができました。

新システム導入に関しては、大規模な作業となる点、色々な業務・関連システムに影響が発生する点等から準備・計画の重要性を再認識したところです。

これらを踏まえ、今後も適切な業務遂行を実施していこうと考えています。